

339  
613



始



露光量違いの為重複撮影

世界探検  
五萬哩

33  
61

西半球

中村直吉著

露光量違いの為重複撮影

世界探検  
五十二萬哩

339  
613

西半球

中村直吉著

赤道

339-613



序

中村直吉君曩に世界漫遊の途に上り年を閲する七箇年  
 五大洲を踏破し其行程實に十五萬哩具に所在の人情風  
 俗を察し經濟産業の情勢を知り豊富なる資料を齎して  
 歸朝し茲に「世界探檢十五萬哩」を著はさる方今世界の交  
 通大に開け陸には汽車自動車海には汽船の便備はれ  
 と雖も猶交通不便の所亦尠しとせず中村君の此行や或  
 は馬背に倚り或は駱駝に跨り或は徒歩以て山を跋え谿  
 を涉り人跡稀なる異境を出入す其の冒險の如きは既刊  
 「五大洲探檢記」に精しく君の意氣君の健脚は懦夫をして



序

(二)

大正  
 4. 11. 23  
 内交

起たしむるの概あり本書は主として文物に關する觀察を録し内容頗る豊富實に前書と相俟ちて現下の時局に照し適切な良書なり同君は又兼ねて幻燈映畫を携へて各地に世界旅行の講演を試み通俗教育に努めらる時偶々歐洲の大戦亂に會し列強の平衡を失し邦人の世界的飛躍を望むや切なるものあるに當り本書の上梓は同君の講演と共に世の歡迎する所なるべし聊か序して江湖に薦む

大正四年六月

田 所 美 治

一千九百一十年余の上海總領事館在勤中に於

中村君の世界週遊、途次を尋うるに又各地に於

て遊遊するを得るに益々愉快とす所あり

君の片道ニ通摩の行程を尋うるに又各地に於

て其目的の達するに本邦の諸君を喜ばせんとす所あり

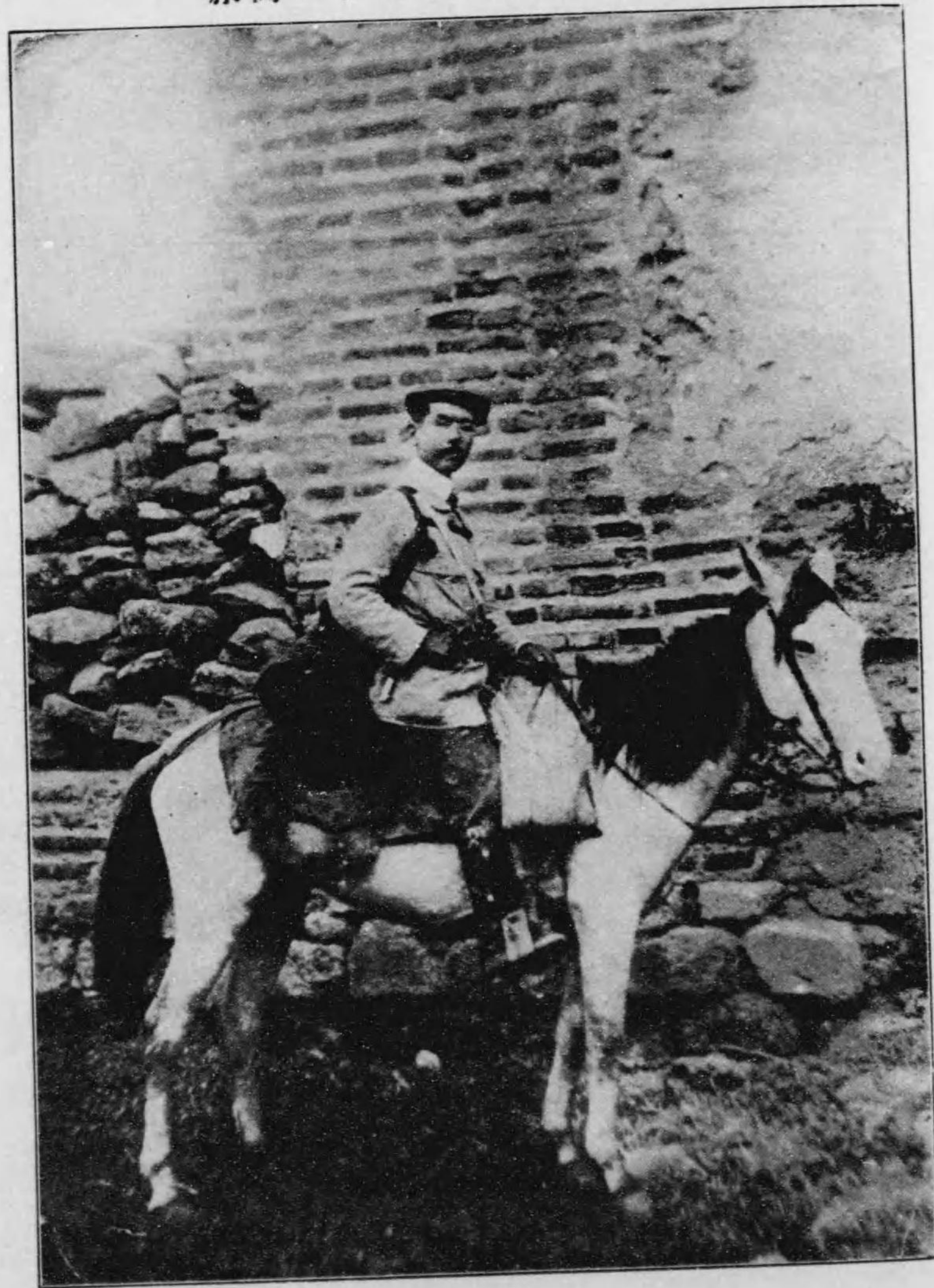
成切の祝を込めて

明治三十四年五月  
 田所美治



探の初めに會するに於て同氏より得たる記念書  
 探の初めに會するに於て同氏より得たる記念書

原高スデンアと氏吉直村中



Esqentura. Tapatura.  
馬名るたれさ贈寄りよ村本日の國墨



世界探檢 十五萬哩 下卷目次

一九、北米合衆國

此の都會でこそスコヤパークが必要——清潔なる都會に不潔なる貧民窟——所謂ホワイトハウス——日本人労働者の宿泊するホテル——日本では御坊ちやんでも米土を踏むと御三どん——外交は吾輩の所へ聞きに來い——日本人の金儲策源地——テキサスの米作——稻から白米にして出す機械——肥料の必要なき地質

二〇、墨西哥共和國

蠻勇と野心——西班牙風俗と土人の風俗——マアツチエットとピストルは常に吊げて居る——日本人の模範植民地

二一、巴奈馬共和國

得手勝手の憲法政治——運河の軍備は勞して功なし——世界無比の嚴重なる要塞を築かん——飛行機の威力で運河の軍備も水泡に期す

十五萬哩下巻目次

二二、哥倫比亞共和國

海抜九千呎に建設したる首府——官吏の暴行は一盃呑めぬ失望から——警察署長官吏の無禮を謝す——  
——十二日間航行した河蒸汽——旅友と思つた兵士の強迫——コロンビヤの紳士に助けられた山中の一  
夜——バナマ帽子の名産地

二元

二三、伯刺西爾共和國

南米と天然護謨採取——護謨採取會社が歐米に出來ざる理由——護謨採取方法及び各國政府の保證——  
——護謨樹探檢と用意と行動——護謨の種類と繁殖の地方——護謨林の收得と日本人殖民地

三元

二四、亞爾然丁共和國

露國人の移住多き殖民地——大足國と命名した——男に髭の生へぬ土人と風俗——獸獵と習慣の奇談——  
——土人の勳章は人間の首——世界最南のマセルラン海峡——テラ、デル、ブエーゴ村——首府ブエ  
ノス、アイレス——アルセンチンの移民規則

五元

二五、濠洲聯邦

何人も知るシドニト港——完全なる海陸の設備——カンガルにて通名となつた濠洲人——一頭の羊は  
——エーカーの草で生長する

七元

二六、ニュージールランド

マウレ——土人は馬來人である——一隻のカヌアで遠征の目的を達した探檢隊——家屋の注は總て記念  
碑——土人の風俗と裝飾——世界最南の瓦斯點火

六元

二七、南洋諸島

ニューギニヤの立毛種族——木曜島の眞珠採り——マーシャル群島——ヤップ島の土人——ヒリツヒ  
ン人の建築は日本風である

八元

二八、全世界五大洲探檢を完結す

經過す六十ヶ國行程十五萬哩

九元



目次終

世界十五萬哩下卷探檢

五大洲探檢家 中村直吉著

北米合衆國



此の都會でこそスコヤパークが必要

大西洋を横断して紐育市に上陸した時は、検疫官は歐洲各國の婦人を調べると、先づトラホ  
テムを検査する。次いで調べる事は米國に何を目的に來たのだ、と質問された婦人等はまさか賣  
春婦とも云へぬから、教へられた様にミシン掛けをするのですと答へる、尤も是れ等の婦人は  
三等客である。是れが西海岸であると婦人の單獨渡航は其目的の事實を明白に證明した書類が  
なければ上陸を許さぬと云ふ譯であるが、如何米國政府の規定が東西に於て相違して居るか

北米合衆國

解かる、此邊が共和政治の本色かも知れぬ。

紐育の都會は何人も先づ建築物で目を驚かさぬ者はなからう、建築物の話は改めて話すまで必要もない。又ブロクリン、ブリッジは約一哩の大鐵橋で、北米合衆國の名物として教科書にまで書いてあるが、此の大都會で一寸した事で氣の付かない事がある、其れは面白くもない事だが、市の大公園と市内公園の外は町々の場末にも、又豪家の屋敷にも、青草樹木を容易に見る事は出来ぬ。其れが爲め此都會には市内公園の必要があるのだ、吾が東京の如く上野に天然的大公園があり日比谷や芝公園がある、其上に自己の家屋は周圍を殆ど庭園で満たして居る、而して市民の貧家にまで樹木は珍らしくないにも拘はらず、最近に到つて市内公園を盛んに造るのは眞に必要から造つた譯でなく、歐羅巴や北米などの眞似をしたのに過ぎないのである。それで紐育には何故公園の外には草木を見る事か出来ぬかと云へば、此の世界で最も廣大なる都會は一つの島である。周圍の三方面は河水に圍まれて東部は大西洋に面して居る、であるから周圍の河岸は眺望の地丈けに富豪の建築物が多く、況んや中心たる商業地殊にブロードウ

エー町以東海岸に到る迄は、山の如き大建築が揃の齒の如く連結されて居る、其の他の面積は記するまでもない、碁盤形に設計され、人造石の人道と車道が、氷の張り結めた様に次ぎ目も無く細い横町まで水溜りなどが一ヶ所もないやうになつて居る。

であるから貧乏人は九階とか十階以上に住む事になる、そうゆう譯で市内公園の必要があるのだ、紐育大都會の面積は一つの阪も無く土手も無く全然人造に依つて造り上げた世界無比の平面都會である、故に其の地代に於ても、土一升金一升どころではなく、其れが爲めに相場の無い空中の、人身に害なき限りを程度として、建築するのであらう。

清潔なる都會に不潔なる貧民窟

紐育の都會に、一番見苦しいものは高架鐵道である。其設備が材木を以て架橋した様に出来、且つ其材木が石炭の爲めに黒く染つて居るから、頗る殺風景でもある、所で其の高架線の下は振動が甚だしいので家賃が安い、爲めに貧民と賣婦の集合區域となつたから、紐育市中に此程不潔の町はない。

此の清潔なる都會に、此の不潔な貧民窟がある、如何に人類としての階級が相違して居るか  
 を研究するに於ては北米大陸社會の不公平は、到底日本の如き差でない、であるから北米の社  
 會に下級労働賃銀の不平を稱へ同盟労働を造つて、時々スツライキを起し、社會主義を以て團  
 結力を造り、而して富豪の獨專的利益を妨害する様な事が起る原因であるのだ。  
 「即ち如何に資本が豊富であつても、勞力の無い場合は三文も利する事は出来ぬ、資本家と勞  
 働者の利益を公平に分配せよと同盟して資本家に迫まるのも、勞力の不足なる米國の労働社會  
 として一理ない譯でもない。

所謂ホワイトハウス

北米合衆國首府ワシントンと云へば、何人も耳にしないものはあるまい、其れと同時に大陸  
 の文明國首府丈であり、大統領は音に聞えた白館に政治の中心を握つて、世界の太勢を眺め、  
 又内國の慾張り供や我儘者を押さへ付けて居る處であるから、定めし宏大なる亞米利加式の建  
 築であらうと思ふが、事實は其れと正反對で、首府は紐育の二十分の一も無い片田舎の記す程

の町ではない、又白館としても別に眼を引く程の立派な所もなく、殊更に建築物の方面から  
 書き立てる程のものはない、寧ろ其首府ワシントンや大統領官舎白館の以外なる點い  
 て簡單に記す方が、「多くの旅行者が書き立てる針小棒大よりも」實質でよからうと思ふ。  
 ワシントン府は、大西洋から送る海風の通る静かな樹木の繁つた所で、日本で云へば別莊地  
 である、で、あるが大統領の所在地である爲めに各國の大使館公使館は其周圍に接近して居る、  
 一口に云へば御役人町である、けれ共一國の首権者の所在地であるから首府に相違ないと云ふ  
 位の所である。

それで白館はと云ふと、是れも見ても驚かざるを得ぬ、聞ひて行つても赤毛布では知らずに通  
 り越して仕舞ふ位である、其建築は平屋造りの家族が十人も住む程の事務所で、それが全部白  
 いペンキ塗りで光つて居るのだ、其の周圍は樹木が繁茂して静かな間に何となく自由の空氣が  
 満ちて、一種の威嚴ある光輝が放たれて居る、が是れでも大統領の官衙で無形の智力と有識活  
 力が動いて居れば、ロッキーマウンテンを越へて遠く太平洋の沿岸までも、別段組織立つた武力を備

へず平和と自由をワシントン以來保つて居ると云ふのは彼の國の共和政治の美なる所であると、此の白館を見て思はぬ人はなかるふ。

ところが、華盛頓首府なる價値は、此の外に現れて居る、即ち北米合衆國上院下院の國會議事堂と國立圖書館である、是れ等の二大建築及設備は云ふまでもなく、其實質に於ても世界無比とまで賞評されて居る、其他南北戦争の記念碑は長方形にして細く高く先頭が尖つて、其中で昇降器が空天に人を運んで、白館や圖書館を眼下に睥睨し、遠く大西洋の雲を望む心持ちは、何となく歴史的趣味が起つてくる、此に於て始めて華盛頓首府たる物質が印像されるのである。

世界無二のナイヤガラ瀑布

世界に有名なる、山、河、湖なるものは、其地勢上より大陸に多きは自然の結果なるが、山嶽深く重なりて川流れ、流れの集つて湖となりたるは、今更説明の要もないが、ミシガン湖と云へば地理の智識なきもの、記憶に存する大湖、其湖水の流れて溪谷に暴落する彼のナイヤガラ

ラ瀑布は、加奈陀國境を舐めんとして能はず、遂に北米と加奈陀の平和を分つべく國境保證線となつて居る。

見渡す斗り大河口の如き瀧口、湖岸を眺むれば千丈を暴落する湖水は水蒸氣の中に消えて、溪谷に響く音は恰も外海の鳴るが如く、今や瀑布に曲折せんとする湖水は、宛然無色水晶の如き壯觀 投げ付けるやうに冷とする心持ちと共に、身を引き人れらるゝかと思ふ様に浮身になる感じがするので、とても五分間とは瀧口に立つて居る勇氣は出ぬ程ゾツとする。

周圍は青草花を交へて、其植え付けたる公園には、N、Y、G、A、と模様に見はし、或は種々の形を彩りたる人工は米國式の趣味を加へ、天然の樹木は高くミシガン湖上を睥睨し、遠近に見ゆる山は棚引く白雲の間に起伏して、突然廣漠たる一種のパノラマの如く、其の眺望絶景は實に天下の名勝である。ナイヤガラの水力電氣配電所の音が幽かに聞えて居る。

サンフランシスコ市

北米太平洋の名港サンフランシスコは、明治の初年からポツ／＼日本人も渡航を始めた以來、

今日は横濱の對岸丈けあつて、小供までが日本語のやうに細長い名を苦にもせず短く呼んで居るのだから、モ一桑港などの略字は用ひる程の必要はない、却つて教育上有害である位だから、事情もよく解つて來たが、又一面には日本人が多數になる丈け隨て日本式の蠻風も盛んに行はれて來た。日本人がサンフランシスコに上陸してからの様子を書いて見やう。

皆々さうと云ふ譯でもないが、まだ日本帝國の首府たる東京も知らない連中が、鐵を捨て、米國行きと、横濱や神戸に飛び出して、イザ告別と太平洋に乗り出した、船は威風堂々……大和武士は冠髪を突く勢ひ盛んなものだが、サテ上陸するとなると「航海中の論戰壯語、天下何者かあらん人道を無視シチヨル米人輩が、と」大陸を呑んでかゝつた豪語が何れかに消えて仕舞つたと、云ふのは上陸して見ると、其の長舌が何の用もなさず、解つた振りをして、イエス、ノーより外は意味が解せぬからだ。

併し日本人が多數になつて居る丈けに、大概の事は日本人の營業者の手で出来るから都合はよくなつて來た、それで通譯官の御蔭で上陸が出来ると波止場から、日本人の馬車で宿まで行くのである、破馬車であるならまだしも、何れも例の柳行李とか支那鞆を積み重ねた其上に馬乗りにつて、荷物同様運ばれるのである。

日本人労働者の宿泊するホテル

宿屋と云へば體裁がいゝが恰も下宿屋であるので、其下宿屋も木賃宿式である、其れを説明すると、かう云ふ譯さ。

普通旅館なら一室一人とか二人であるが、安宿となると大きな室には三臺四臺の寢臺を並べて、通り道さへ不十分なのだ、其れが多くは二人寢のであるから、所謂追込み式で、其寢臺の上には藁布團がスプリングで持ち上つて居る、其上に煎餅のやうな布團が敷いて敷布が二枚重ねてある此敷布も純白である筈なのが、洗濯の不完全の爲めか何となく氣持の悪い色をして居る、其上に毛布が一枚と南京綿の這入た布團で所々綿の寄つて薄い所と厚い所が出来た、除り温かくなさそうなのが掛けてある。

何れも二十年前位の古物寢臺であるから堪らない、南京蟲の製造所を道具屋から集めたもの

だ、各寢臺の形が違ひ、色が違つた揚句に、疵のないのは少ないと云ふ有様だ、枕は座布團のやうな形でそれが南京綿で中高にぶつくりして居る、それで寝る時の相客はと云ふと熊本縣人もあれば北海道人もあると云ふ譯だ、宿場女郎の様に一夜／＼に相手が変わるので随分心細い宿屋だ、それで寝る丈が一晩十仙。

起きて食 堂に行くのだが、食堂といふと立派のやうだが室の不足の爲か、(普通の家庭で宿屋をするのであるから) 應接室が食 堂に用ひられて居るのもあり、臺所が食 堂になつて居るのもあると云ふ様な譯で、テーブルの上にはオイルクロースが敷いてある、其中央に飯鉢が出して著と茶碗が並べてある所は、一膳飲屋の食堂と變つたことはない、それで煮魚一皿と吸物一腕外に漬物、飯は御手盛りと云ふ譯で一飯十仙で、切符なら一日二十五仙である。

日本では御坊ちやんでも米土を踏むと御三どん

此外日本人のホテルは一泊五十仙から一弗と云ふのもあるが、初陣の若武者連は、やつと集めた虎の子が紙幣で數へて大枚百圓、米貨に直すと五十弗、其心細い懷中だから安宿で安心が

出来ぬ位で、到底一泊一弗のホテルには轉がる譯にはいかない。たとい御國の親が村長さんでも縣會議員の若旦那でも、米土を踏んだからには、宿の好し悪しは云つては居られぬ、前途を考へて見ると、女中替りのボーイさんか田舎に行つて葡萄園の草取り男とならぬばならぬ。

而して三四年も轉付いて來ると、破 英語が話せる様になる、襟飾の結び方もハイカラになる、ホワイトシャツも苦しくないのみならず、二重襟と云ふオツな流行風を好む様になる、靴も雲の掛つたのは苦にすると云ふ米國式が注入されて働きが嫌になつて來ると、最う田舎へ行くのも氣が進まず、悪いことには折角蓄めた金弗に羽が生へ足が付いて、ウキスキーが好きになる赤葡萄酒をバケツで買ひにやるといふやう。

人間が變つたかと思はれる様になつて、志も目的も其口にさへ語らなくなる、さうなつた墮落者は一日働に出かけて、一弗乃至貳弗も取るので、一週間二三日働くと呑代金が出来ると云ふ譯、下宿屋の仕拂ひは延ばす丈延ばして、愈々となると通ひ働きをやるのだ、米國の勞働者は都合の良いことには、一週間毎に給料を仕拂う習慣があるから、其れで一週間働いて下宿

の借金を濟まし、二週間働いて一ヶ月を遊ぶと云ふやり方をするのだ、實に米國は自由過ぎる殊にサンフランシスコは大都會丈けでに暢氣な生活をして居るものが多い、で善財心の無い者は一年の内半年は遊んで暮すと云ふ有様だから墮落するやうにもなるのだ。

外交は吾輩の所へ聞きに來い

此様なつて來ると東洋變風の猛烈な手腕が現れるので、中等教育以上を修めたものは、政治家の冷評を始める日本の外交は吾輩の所へ聞きに來いと云ふ調子で大言壯語、無教育連は歌をうたう飲む端は暴論腕力、酔た揚句は教育あるも無いもあるものではなく、深夜に到るまでも他の迷惑を思はず飲みさわぐので、隣家の歐米人は日本人と云ふ奴は、公德心のない野蠻人だと思ふ譯だ、其の上甚しきは夏季に至ると腰巻一つで水を浴びる、裡體で寢臺に轉ろがつて大聲に詩を吟じて特色として居る、こんなことでは如何に最眞目で見ても、土人以上の人類とは思はれぬ。

日本料理小川亭

併して他の一面を見ると、市の所々に日本式の料理店がある、而かも横行燈に御料理千代志とか小川亭とか又ははこの看板まで日本文字で風變りに書いてある、で、中に這入つて見ると障子や疊までが備はつて居て、呼べば藝者も出て來る、其藝者は洋装かと思ふと、其れでは不釣合だと見え、御召の紋附羽織で左褌と云ふ江戸子式で、萬事形の如く、是れが新橋の支店と見れば其れ迄だが、四千五百哩の海上を航して此の藝術家が現はれるのだから振つたものだ、其れで料理となると鯉の生作り、鯛のさしみ吸物と出て來る。

で、其他は驚くと云ふより寧ろ暢氣の連中は、移民輩の身を以て、義太夫、端唱の師匠を取つて、御稽古と出掛け、其の上裸體躍りと來るのであるから、他に此の變風を補ふべき、大專業家が續出すれば、何れの國民でも其人種の缺點とか變風とかは葬むられて仕舞うものだが、唯労働者の多數を以て勢力を造り勢力は權利であるが如く思つて、日本人は武士的男子だ何處に居つても、米の飯に魚で大威張りだ、ナニ血に交はる必要はない、排斥何かある東洋人は東洋の文明を米國に扶植するのであると向ふ鉢巻で肩を張り腕を組んで其の日を送つて居るのがサ

ンフランシスコに在留する出稼人の状態である。

日本人の金儲策源地

サンフランシスコは、半島地勢の人口百萬の大都會であつて、内は大江見渡す斗りで、向岸にはオークランドを睥睨し、陸上設備を完成したる南北亞米利加の太平洋沿岸中最良名港にして、港口は其名天下に知られたる金 門の名ある如く、實に天然の關門である。ゴールデンゲート公園其右に横はり、太平洋を望んで遠く日本と相對する、日本人の金儲策源地である。

テキサスの米作

テキサス州に於ける日本人米作地は、西原、大西君等の一政治家一新聞記者の學者農夫より開拓されたものであるが。

由來テキサス米作法と云うのは、日本の植付法とは其の方法を異にして居る、先づ最初馬耕を以て土塊を返し草を土中に包んで、其の日光に乾きたる頃、土塊を破壊するに馬鍬を以て二頭の馬に引かせるのである。縦横數回に及んで全く平面たる畑の如く、土は破壊されて細かく粉の土となるのだ、此に於て種蒔道具を以て種を吹き飛ばすのである。(其種蒔道具は箱の中に扇風器の様な羽車があつて、箱の上部には種壺が出来て居る其の種壺の底には眞鍮板に種の通る丈の穴が幾つも開いて居る、更に穴の無い底が重ねてある)、それで種を入れて箱と共に皮紐で首に掛けて、而して馬上種蒔をやるのだが、其の蒔方は箱の右手に一つのハンドルが出て居つて、其れを廻すと中の扇風器から風を起して來る其風の起つた處で上部の種壺の穴の無い底板を廻すと種が落ちる、扇風器の風力は種を馬上から吹き飛ばす、馬は小足に飛走すると云ふ譯で百エーカー位の種蒔は一日に早く蒔き揚げて仕舞のだ。それで更に其上を馬鍬で幾回となく引き廻すと蒔いた種は土中に包まれて仕舞ふ、そうして置いて、五十エーカー位に水畔を作つて、水の流出を防ぐのである。

掘貫井水の外に一水も得られぬ

田の水利の便はテキサス州に極めて稀で、殊に日本人の米作地には皆無であるから、非常に努



力が入るのだ、此の地方には河水が地面より低く山嶽は遠く殆ど沙漠に等しいから（無論溜池もないので）、止むを得ず二百弗の費用を拂つて掘貫井戸を掘り、地下より水利を得るのだが百エーカーに對する二個の掘貫きを造れば足るのである、此の水を必要の無い時は水路に捨て、サア、種を蒔き上げたとなると、見透せぬ程の面積に向て掘貫きの水は放たれるのであるで、水が十分に満された後、一度水を捨て、更に水を掛けると云ふ譯で、恰度日本の苗代を作ると同一で、米作地全面積が苗代となるのだ、斯くして芽を吹いて来る日と共に青田となる。

肥料の必要なき地質

此の捨蒔きの有利なるは非常に手数の掛らぬことであるが、モ一一つテキサスで一大利益のあるのは、肥料の必要がない地質であることだ。

稲の發達と共に雜草も負けず生長して来る、處が稲は選抜したる良種日本種であるから、或程度までは草の方も競争力を以て發達して来るが、發達と共に良種の稲は益々勢力を振つて、遂に雜草の一倍に生長する、此に到つて、草の一寸に對し稲は二寸となるに及んで草は稲の爲

に太陽の光線を受くる事が、稻よりも比較的薄弱となるので、稲は反對に光線熱に乗じて破竹の勢ひで發達し、草は遂に疲勞の體で僅かに存在するのみ。

稲は愈々發達し、花も咲いて實を結ぶのである、而して斯の如く廣大なる面積の稻を蒔るには器械を以て蒔るのだ、其器械は恰も髪を刈るミシンと同様で、上下共三角形の刃が摺れ合うので、稲は其の刃の間に挟まれて切れるのである、其の三角形の刃は一枚の幅が二吋位で、總體ミシンの刃が並んで居る長さは六尺程あるのだ、其ミシンの上に稻の蒔れて行くのが倒れて箱の中に集まると、ミシンの横手に十字形の車が器械の運轉と同時に廻るやうになつて居るから、彼の十字形の車が蒔れた稻をひと抱へ位づつ、進み行く後に捨てるやうに投げ出して行くのだが六頭位の馬で引いて居る、そうして其後から二頭引の農車が来て、大きな三又ホークで蒔り出してある稻を積んで小屋まで運ぶのである。

馬鍬は約二吋角の櫛の木で造つた長さ三尺五寸位で其れに五寸置程の間に一本宛の五分角位の鋼で造つた長さ六吋もある釘のやうな太い金が打つてある、其の釘の角を正面に向けて打つ

てあるから、如何なる雑草の根でも切れて仕舞うのである、其の釘を打ち込んだ木を五本並べて鐵の鎖で一尺置き位に離して繋いである、其れを二頭の馬が引き廻はるのであるから働ける譯である。日本人の馬鍬を振り込んで居るのを見ると一塊の土を五回程打ち付けて漸く破壊して居るが、馬鍬と日本の馬鍬では十人對一人の働きである、如何に大農と小農であつても其方は出来るのに、まだ日本の農具改良には幾多の必要があると思はれた。

稻から白米にして出す機械

小屋に積み上げたる稻を白米までにする器械があつて、一日に白米五十俵を一人で造り上げるのだ。

此の器械は長さ三間位で、車が付いて居るから何處にでも持ち運びが出来るのである、器械の上部に一つの長方形の箱がある、其の箱の中へ藁の儘投げ込むと器械の運轉と共に、彼の稻は第二の器械に引き込まれると、横手の筒口から藁と實と離れて別々の口から出て来るので、藁は捨て、實を更に第三の器械に投入すると、今度は粃と玄米と二ヶ所の筒口から出る、其れを

更に第四の器械に投入すれば糠と白米とが離れて出来るのである。日本の様に無砂搗などと書立る必要も無く、純白米が斯くして麻袋に入れられ東西に送り出されるのである。更にテキサス米作地の日本人が其農業が大農式であるばかりでなく、相應の教育ある農夫であるのが、日本人殖民地の將來の爲めに最も幸福であらう、なせかと云へば、日本人排斥熱が時として現はれる米國人の頭も、此の如く常識あり人格を保ち其上金持であるから、必ず日本人の信用もあるべきで、テキサス在留日本人等の爲め、延ひては日本國の米國に對する移民政策に就ても、又彼れ等が武器を有せざる平和戰軍隊として賞讃せざるを得ないのである。

(二〇) 墨西哥共和國

蠻勇と野心

墨西哥は熱帶地方である丈けに、土人種族が最も多數で、又勢力も盛んなものだ、併しながら土人等は教育の程度が低いので、到底一國の政權を握る丈けの資格はないのである。其れが

墨西哥共和國

爲めに西班牙遠征軍の進入以來、政權は西人の掌握に歸したが、西人の後西班牙の壓迫を脱して一大獨立國となり、國民も西班牙人と土人との間に出來た謂ゆる有色人種の繁殖と共に、歐米人對土人の合の子雜種を産殖するので、隨つて風俗も種族に依つて異なつて居り、南北米の二大陸中最も有色異人種の多い國民である。

今や内亂の盛んなるは、蠻勇野心家が多い爲で、國家の存亡を顧みず、其行政權を自己の自由に爲さんとする、自己本位の慾望家にして、國家の將來を顧慮せず、唯目前の武力を争ふのみ、斯くの如き老壯士の將軍等なれば、軍資の續く者は武器を備へ兵を集めて其の將となる、故に是れ等將士は人種の同種屬を一軍隊とするので、其土族の信望より敬服さるゝ處となり、拔選されて指揮官たり名將となるのである、土族の種類多き丈に各地方に野心家起り、國家の存在を危険ならしむるのである。

西班牙風俗と土人の風俗

墨西哥の風俗は西班牙風俗と、土人風俗の二種があつて、種屬の違ふ毎に風俗が異つて居る。

西班牙風俗はオーバ、シャツに派手やかな飾襟を掛けて、セビロと云ふ風で、洋服引は獵裝服のやうな膝までは太くて、膝から下は肉に貼り付けたやうになつて、金燒のボタンが五分置き位に光つて居る、仲々小意氣な風俗だが、帽子が麥稈帽で、縁は極めて廣く、頭は最も高く「一尺五寸位」出來て居るので、見たところ頗る滑稽である。併し此の帽子は實用上斯く造つたもので、熱帶の氣候には風通しが好く、縁の廣いのは日陰が出來て涼しい。

土人の風俗は種々あるも、其多數行はれて居るのは、昔時は兎に角、四百年以來西班牙人の功勞尠からず、殆ど歐洲風に化したので、上部は男裝となると、白木綿のシャツに、下は半ズボンで膝からは素足で熱帶の焼いたやうな土を踏んで歩く、帽子は同じ様に山の高いのを冠つて居る。所で土人式の相違した所はシャツの上着に外套と云うを着て居る、それは毛布の様な大形もあるが、彼等の手織になつた幼稚な毛織の四尺平方位の小形のものもある。其の織物の中央に頭程の穴を開けて其穴から首を通して、前の方が一尺程切つてある、そうして其の周圍に襟を細く付けて前の所はボタンで締めてある。

マアツチエツトとピストルは居る

南部の土人は平和の時でも、大刀と稱する幅一寸長さ二尺五寸程の刀を革袋に入れて腰に下げ、其他にピストルの六連發を持つて居るので、知らぬ者は戦時かと思ふ。

であるから亂世の墨西哥となつた今日は、國民は一般に武裝して居るであらう、彼れ等は砂糖の木より取りたる酒を好む、恰も焼酒の如く強い酒であるが、此の酒を男女共に錢のあるまでは呑む歌う。呑み代が盡きると働くと云ふ怠慢性は土人の特性で、彼れ等の頭には國家はなく自活が出来れば足るのである。

日本人の模範殖民地

タバチユラ洲エスクインツラ村附近一帯は、故榎本子爵の日本人殖民地として人の知る所なるが、同子爵の權利を放棄して以來、當時の殖民殘兵は此に踏み止まつて砂糖耕作に従事するものと、北米より移住したる書生上りの日本人は、エスクインツラ村に雜貨商を經營し居りたるが後、布施農學士は青森縣の或る資本家より依頼され牧畜業に従事したる後は、墨西哥南方

に於ける日本人殖民地の根柢を築いたるものである。砂糖耕地を耕し居る日本人の六七人は何れも土人を妻となし、二子乃至三子を設けて永久的殖民と成つた、中にも照井君は村長に選ばれて土人の信用を受け其村の名望家となると云ふ勢ひ、布施君は種牛百頭を買入れて廣大なる牧場を有して居る、又小橋、山崎の兩君は雜貨を首府墨西哥より仕入れて土人を相手とし、今や是れ等同胞諸氏の業務は非常に發展し、山崎、小橋君等は牧畜及護謨培養に資本を投じ、大に成功を現はしつつあるものなるが、布施君の外は何れも一書生より志を立て、全く無一物で苦戰奮闘し、以て今日に到りたるものにて、既に七八萬圓の寶庫を作つて居る。墨西哥南方に於ける日本人殖民は歐羅巴人の殖民と同一なる殖民生活より成立したもので、其忍耐努力は殆ど苦痛と戦ひ、氣候と戦ひ以て今日の成功を爲したる感服すべき人々で、彼等は眞の殖民として價値あり實力ある模範である。

(一一二) 巴奈馬共和國

巴奈馬共和國

得手勝手の憲法政治

巴奈馬共和國は天下無比の憲法を制定し、北米合衆國政府保護の下に建設されたのである。政黨は二大政黨あり、即ち自由黨、保守黨である、建國第一の職務として國旗を定めたが、其國旗は兩黨和協して國を守り、平和を維持するの意に取り、之れを四割に等分し、青地は保守黨を代表し、赤地は自由黨を代表し其他は白地として平和を代表せしむ。其一方には白星を現はし他の方には赤星を點す、而して幣制を改革し金貨本位を定め、本位貨はバルボアと稱す。

巴奈馬共和國は民立政治と云ふよりも、實は勝手政治たるを免かれず。曰く、憲法條款には市民飲酒の常習あるものは、市民權を剝奪せらるべし。曰く、巴奈馬共和國に奴隸なし、如何なる奴隸も一步巴奈馬共和國の領域内に踏み入ることを得るものは、踏入ると同時に自由の民となるを得べし。曰く、市民は負債若しくは純然たる民事上の義務の爲に逮捕監禁せらるゝことなし。曰く、國會は官吏の行動に關して信任不信認の決議を爲すことを得ず。曰く大統領は

近親を選擧して後任者たらしむることを得ずなど愈々出でて増々滑稽又獨立國たらんとして巴奈馬共和國に騷擾起る場合は、米國政府は其の何等に係はるを問はず、直に干渉して公安并に憲法上の秩序を回復する事を得と云ふ條款ある程の、完全に非らざる獨立の資格なき有名無實の共和國が建設されたのである。

然るに彼の國民は世界の獨立國と同一の伍班に入れるを誇り、各國と公使を交換し、政治は立法、行政、司法に分ち大統領、内閣、議會ありて立派なるも何れも一種の人形に異ならぬ官吏のみ。

又米國より取得したる運河地帯の代償金二千萬圓は之れを國內七縣に分配する事に定めたるも、内一千二百萬圓は新共和國をして之を浪費する事なからしめ、米國に於て其用途を指摘し、紐育銀行に預け米國證券に放下せしめたるのだ。

斯くして巴奈馬國民は皆満足し、新共和國の建立萬歳を唱へて得々たる御日出度國民である

運河の軍備は勞して功なし

米國は何國もなし得ざるをなし。歲月と黄金と努力を以て巴奈馬運河を成功し、世界の一等道路を造り前代未聞の偉業を現はしたのである。是れを爲すに當つては、必ずや平時は無論戰時に於て利用せんとの野心より實行したるものとは解り切つたことだ。

併しながら若しも戰時の場合に單純に之を防禦し得るか、問題である、假へば大西洋又は太平洋方面から攻撃を加へんか、海上に於て運河開渠を破壊するに困難ではない、又百歩を譲つて攻城砲を用ひずして、單獨なる一兵士が變装して、探檢的に運河地帯内に忍び入り、監視の眼を潜り爆裂彈を開渠組織の要部に投入せんか、是又隨分危険ならずとせず、是れを考へ之れを恐るゝが爲に、運河地帯内に外國人を居住せしめず、又地帯内に入出入するものを取締らんとするものである。然るに平時に於ては是等の取締は完全に行はれんも、一朝急なる場合、敵は戰略上運河の破壊を目的となすは當然であらう。

故に米國は之に對する用意を怠らず、此に於て運河築城といふことは數年來の問題と成つて居る、米國は運河の防禦に付き議會の承認を経て、行ひつゝある計畫の大方針は大略左の如く

である。

世界無比の嚴重なる要塞を築かんとする

運河口に要塞を築城し、水雷を布設し、敵艦隊を防禦し、併せて米國艦隊をして自由に運河の行動を得せしむる事。

野戰築城を起し、移動軍隊を配備して水閘を守り、又敵の陸上背面攻撃を守る爲め數ヶ所に砲壘を築く事。

而して大西洋の入口なるリモン灣の兩側に砲臺を築き、又一面には太平洋運河の附近なるアラメンコ、ペリコ、ナオスの諸島に要塞を築きて防禦を嚴にし、本土バルボア港と、此等諸島との間には、山の如き堤防を以て連結せしめ、其の間に鐵道を布設せんとす、バルボル港よりナオス島にいたる約三哩の堤防は、千九百〇八年五月より起工し、千九百十二年十一月を以て竣成し得る筈にて、其他は皆既に連絡し得たのである。是等の海岸要塞には十六吋砲、十四吋砲、及六吋旋條砲又は十二吋臼砲を据付くる筈であるが、若しも此の要塞にして竣成したらん

か世界無比の嚴重なる要塞であらうといふことである。尙是れに加へて沈設水雷を以てすれば、海岸防備は完全を告げ、運河及附近諸港に敵の艦隊侵入を防がんとするに遺憾なしと云ふのであらう。

飛行機の威力は運河の軍備も水泡に期す

陸上背面の防備としては野戦築城を起し、平時歩兵三個聯隊(戦時は各聯隊約二千人となる)騎兵一個旅團、及野戦砲兵一個大隊を置く筈、此の野戦築城及移動守備兵を設くるは、開渠其の他運河の重要な工事を破壊せんとする、敵艦隊の上陸隊を撃退するの目的を以て備へ、又移動守備兵は平時に於ては警察任務に當らしめ、運河地帯内の秩序を保護せしむるものである。而して敵艦隊の運河口に接近せしめざる爲め、大西洋には玖馬に海軍根據地を設け、又太平洋にはガラバゴス群島(南米エクワドル領)に海軍根據地を設けんとするのである。

然るに現代未曾有なる歐洲大戰に於て、實驗と實力を試みたる飛行機の發達は巴奈馬運河の防備を苦しむるに到つた。飛行機の威力は恐るべき一千斤の爆裂弾を積み、一萬九千呎の高度

に昇り、實に一時間百二十六哩の速力を以て、二十四時間以上を飛行し得ると云へば、運河の要部たる人造石の開渠或は地迫の起り易きクレブラ掘割に向つて、數噸の爆裂弾を投下するとせんか、運河は忽ち致命傷を負はん、如何に金力を以て爲すも、巴奈馬運河の戦時必要となる防禦は、南北米大陸の敵ならば兎に角歐洲各國の強敵には氣の毒ながら、勞して功なく、况んや日本軍の支那に於ける旅順青島の攻略振りを見ては、全く顔色なしといふであらう。

### (二二二) 哥倫比亞共和國

海拔九千呎に建設したる首府

哥倫比亞は南米大陸の最北に當る一大共和國であるが、首府ボコタは海拔九千呎に建設されたのだ。其れは熱帶地勢の爲に人身に適する氣候溫和の地を選んだもので、首府に旅行する人は容易のことではなく、先づ一種の探検的で用意しなければならぬ、それで一番旅行の容易な方法としてあるのですら、先づ大西洋側のバランキリヤからマクダレナ大河を六百哩程川蒸氣

哥倫比亞共和國

船で上るのである、それで其途中が恰も探検船である。

此の當時コロンピヤ政府は、北米合衆國政府の外交に依つて巴奈馬運河開鑿權を夢のやうに一兵一馬を動かさずして、獨立されたる巴奈馬政府より獲得されて仕舞つた後であつたから、官吏等も餘り良い心持ちはして居らない時であつた。

官吏の暴行は一盃呑めぬ失望から

バランキリヤ市に着すると、縣廳に知事を訪問した。すると折悪しく知事が不在で、屬吏が應答したから、實はコロンピヤには内亂の當時内地旅券が必要であつたそうだが、今尙どうかと思ひ、其必要の有無を聞きたいのですと云ふと、屬吏は其れは私には確答出来ませぬと、不得要領……それは未開國の常として内亂が時々起るので、外國人の出入に注意するからである、調度内亂の後で外國人には内地旅券が必要であることを耳にして居つたので、先づ旅館に落ち付かぬうち、知事を訪問した。

此時何と思つたか、此吏員は何處に御宿泊ですかと問うた、イヤまだ旅館は定めて居らぬ、若

し旅券が必要であれば明朝マグラレナの汽船に間に合ぬからと思つて知事を訪問したので、と云ふと、屬吏は何か考へた様な顔をして、其れでは旅館を御案内致しませうと親切に同行して呉れた。處が縣廳を訪問する以前、道を迷つて町端れの方向に這入つた際、白首でも居るやうな飲食店の多い所が狭い町にあつたが、屬吏は先きに立ち其方面に向つて細い川に架つた石橋を渡らうとするから、旅行者の頭には直に感じたので、ヤ一其方面には旅館らしいのが無いやうだから、却つて縣廳に近い方がよいので。此の附近に一泊しませうと云ふと。其れではと顔色を變へて五六間も行くと思ふと、突如右腕を握つて日本人として哥倫比亞に無旅券で入國するとは不都合極まる法規違反であると食つて掛かつた。

意外の親切顔で一盃の酒でも呑まうと云ふ野心が、思うやうに達せられぬ所から、未開人の常として官吏たる身でありながら、非常識なる行爲を取てし外國人を傷けんとするより、目に物見せんと思ひしが、餘り大人げなく、彼等を相手に腕力沙汰はと思つたから、靜かに其手を打ち拂ひ笑ひながら、お前は發狂したのか、旅券が入國の爲めに必要なれば、上陸の際入國を

哥倫比亞共和國



許さぬ筈だ、何の質問もなく上陸を許した、哥倫比亞開港所の規定であるのに、今や縣廳の一屬吏位の者が何を愚にも付かぬ事を云ふのだ、無禮の行動を謝せと一喝した。

警察署長屬吏の無禮を謝す

周圍は人の山を築いた巡查も来た、巡查は兎に角警察に同行せんと云ふから、斯の如き未開人を相手とするは甚だ迷惑である、警官と同行して警察に行き署長に面談するや、署長丈けあつて能く事理を解し、彼の屬吏が曲解したるを氣の毒に思ひながら、日本人の入國に對し旅券の必要はありません。尤も内亂後は内地旅券を所持さるゝ必要がありました事は一般外國人に對する規定であつたが、其れも當今は必要のない事になりましたといひ、官吏の不都合を謝して事済みとなりたる後、初めてでは様子も解り悪いかも知れませぬから御案内させますと、巡查を付けて旅館を案内させた。此日思ひも奇らぬ官吏の暴行でそう思つた、未だ哥倫比亞國の入口で、こんな蠻行が行はれる様では、前途幾百哩の山中には如何なる出來事が起るかも知れぬと覺悟をした、翌朝知事の官邸を訪問して前日の不都合を語つた處、知事は屬吏の不禮を

深く謝したる後、別に規定として必要もありませんが、未だ國民一般の智識が發達して居らぬので、又不都合があつては御迷惑ですから、念の爲め地方官民に誤解のないやう、内地旅券を差上げて置きますから役所に御出で下さいと、知事は直に同行して官邸から登廳され立派な用紙に大きな丸い印を押して、すらくとペンマンシツプ的に書いた旅券を渡された。

十二日間航行した川蒸汽

マクダレナ河の上流オンダ迄往復する汽船は英、佛、獨、米、等の汽船會社と(哥倫比亞政府の補助を得て設立された私立合資會社の所有にて)、マクダレナ汽船會社の内外五會社である。此の河流は夏季に到つては水量不充分的爲め夜間は淺瀬を恐れて航行を中止し、晝間丈け航するるので實に暢氣なものだ、其船を進行するに當つては恰も探檢的で森林にカビバラを見止めると思ふと、船長は船の進行を中止して、甲板に銃を持出し船員も助力に勉め獸獵を始めるのだ。又河原に甲を乾す鰐を見れば直に銃殺すると云ふが如き一種の獸獵船である。是れ等の汽船は約二百噸位で二階造り、客は上等下等の二階級に分つてある。氣候は熱帯である爲めに、寢室

に居るのは苦痛であるから、何れも乗客は甲板にハンモクを釣して、蚊の攻撃を防ぐため、細かな網を冠つて夜を明かすと云ふ有様、それで一日に五十哩進行すれば、鬼の首を取つた様な顔をして居る、船長の意気込みだから驚くのだ、尤も石炭でなく所々に割木が用意してあるので、此燃料を積込む丈けでも二時間は毎日費して居る。

かうして航行すること、實に十二日間を経て上流の一村落オンダの小港に着し此に上陸、愈々首府ボコタに向ふ、オンダから三日間の山中を騎馬旅行で山又山を打ち越えて登るのだ、翌日の夕方一人の兵士が銃を手に持ち重そうに登つて行くと思ふ折から、フト兵士は足を止めたので、是れは同行者が出来たから、今夜の夜行は話相手がある、殊に哥倫比亞の兵士だから安心だと思つた。すると兵士は今晚は夜行ですかと云ふから、イヤ途中に宿もないやうだから宿のある處まで行きたいと思ふ、それでは御同行しませうと云ふ……何分頼みますと云ひながら互に後になり先きになり瓜先き上りと成つて來た。

旅友と思つた兵士の強迫

暫く進んだと思ふと、彼の兵士は何に思ひけん、突如として銃を立つて、モー進行は出来ません、哥倫比亞政府は午後六時を過ぎれば旅行を禁じて居りますから、此に一泊しなければならませぬと命令する如く云つた。

彼れは此の土人の家に止めて酒でも吞ませて貰はんと思つたのか、一人山中の旅行者と云ふ處から、吞代でも出したら許すと云ふ様な態度が見えた。

是れは又蠻行だなど思つたから、幸いバランキリヤの知事から得て來た、地方官憲は保護を與へよとの命令書があるから、是れを突き付けて、是れが讀めるかと示すと、兵士は見ても讀めぬやうであつたが、兎に角哥倫比亞の文字で大形の朱肉の印が押した立派な書類であるから、驚いたやうな顔をして、それでは許すと云つた、強迫した丈けの度胸もなく、引込んだから長居は毒だと考へて、暗を突いて冒険旅行を試みた。

するとオンダで同行を約しておいた哥倫比亞の紳士が三人連れで騎馬を進めて來た、と見ると、ヤ一待ちかねました實は今兵士に強迫されたが、意外に小膽の奴でしたと話すと、彼の紳

士等は其れは誠に氣の毒でした、此の山中は未だそう云ふ野蠻風が時としてあるやうですから一人旅は出来ませぬ、何にも取られませんでしたか、イヤ別に取られたものもないのですサア是れからは吾々が御同行致しますから安心なさいと、騎馬の三人は後になり先きになつて同行した。

コロンビヤの紳士に助けられた山中の一夜

山は次第に險惡の道路と共に急阪になつて來たので、馬も容易に進行が出来ぬ、道路は眞暗で僅かに星明りのみである、遠く燈火が見えると思ふと、一軒家が目の前に現はれた、一行は此に達して見ると、土人等が七八人集つて酒を呑みながら、何か大きな聲を出して話して居る、此家は酒や雜貨を賣つて居るから、彼の紳士等は蠟燭を買ひ込んだ、どうするのかと見て居ると、新聞紙を折り曲げて其の中に蠟燭を狭んで火をつけた。サア是れからは騎馬でも駄目だから、馬を引ひて徒歩でやります、此の蠟燭の明りで行くのですから一本宛持つて御互の足元を氣を付けて行きませうと、紳士から蠟燭を渡されたので、

一行と共に一軒家を出て見上げるやうな高い阪を昇つて、蠟燭の火が風で消える又附ける消えては附け、つけては消えると云ふ有様でもとも山中を蠟燭の火では駄目だから、遂に捨て、仕舞た、サア眞暗となつたので、足元に鳥が立つ様になつた、斯くして迄苦痛を忍んだのは、どう云ふ譯であるかと云ふと、熱帯地の旅行は日中山路の苦しみを恐れて夜間に登山するのを習慣として居るのである。

やつと午前二時に到つて山間の一旅館に着いたので、一行は身を投げ出したやうに寢臺に轉つて着た儘で翌朝の九時まで寝た、起きて見ると山間の旅館とは思へぬ程立派な旅館であつた、斯くして三日、西班牙遠征軍の築いた都ポコタ首府に達したのである。

云ふまでもなく哥倫比亞は南部をエクワドルに接し、北部は巴奈馬地峽を連鎖して東方をウエネズウホラに墜し、西方一帯は太平洋に面す、アンデス山脈は重疊としてカウカ、トリマ、アンチオキヤ各州の三平原を圍み九千呎の高峯は商業中心點となり、歐米の雜貨を輸入し市場繁榮を極む、是れ即ち南米のナポレオンと稱されたるポリーバー將軍の一度都したるポコタ府

哥倫比亞共和國

にして、人口約七萬市街は大家高樓を並列し世に其名も高きバナマ帽子の名産地である。

### (二三) 伯刺西爾共和國

南米と天然護謨

世界大陸に於ける寶富は、宇内何れにあるかと云へば、天産物としては、先づ南米に着眼せざるものはなからう、而して南米の大陸は南北に於て氣候風土を異にし、其最南は寒帯に接し、中部は温帯に位し、北部は殆ど無人界と稱する熱帯にして南米全面積三分の二を有す。而して此の熱帯に得る天産物は、温帯寒帯に於けるそれとは、自から同一でない。言ふまでもなく是れ等天産物は、過去四百年前よりの探検に依つて、歐米人は先きを争ふて資金を役す、今や小資本家の利するを許さず、故に競争力なき小資本家は、半資半勞力の合資を以て、歐米大資本家の手を付けざる方面に向つて、一大活路を開かざる可からずだ。

此に於てか既に實行期に入りたる、南米天地の富源は其利如何なる天産物を得る哉、又何れの

氣候を選ぶかにあり、で日本人として南米に企業せんとすれば、其事業に趣味と經驗を有する人物を得るの必要は無論なるも、第一の條件としては初期より大資本を要せず、器械力を要せず土地權を要せず、及人種的觀念を狭まざる、人權上の自由を得る領土内を選ぶを先決とする、次で第二條件たるは白哲人の注目して多くの利益を收得する、天産物領土内に未だ大資本を恐れず投資する者なき方面は、小資本家たる日本人の突貫すべき活動舞臺たるは云ふまでもなく故に此の二條件を具備する先見ある企業家は、先づ南米北部熱帯地にある特産物に注目すべく、白人労働者の進んで收得し得ざる困難の場所は、日本人の進んで收利すべき舞臺であつて彼等白哲人種の忍び得ざる所なるが故に、日本人は彼等種族より以上忍び得て其の成功を期せねばならぬ。今其一例を擧ぐれば、南阿トランスバール金礦勞働の如き、或は布哇砂糖耕地の如きは、既に歐米人の資本が甚大に投じあるにも拘はらず、白人労働者は此に集合するを好まざるため、遂に布哇は日本人の勞力地盤となり、南阿金礦は支那人の勞力範圍となつた、其理由は南阿金礦採掘地は、世界中最高勞働賃銀と稱へらるゝ所丈で、隨つて物價高度なれば、比較的費消力

南米と天然護謨

強き白人労働者には、不経済の點尠くないからである、又布哇群島に於ては、勞銀と物價は比較的平衡を保つて、生活上不経済少なきも、白人労働者の身體は熱帯の氣候に適せざるため、白哲人種の移民を試むるも永く留まるものなく、遂に日本人の活働舞臺となつたのである。故に小資本家の勞力競争に依つて、成否を決する地盤に進んで、より以上の利益を收むるは南米の富源に着眼したる我が海國有爲の士のなすべき事にして、又好時機と云はなければならぬ。

惟ふに熱帯地の特産物にして、有利なる事業は、農工商礦牧に非らずして、今や歐米に年々數千萬弗を輸入し、日本又三百万圓を輸入するに至つた、工業上最も必要とする、伯國特産バテラ護謨採取業之れである、護謨採取地は南米大陸を横斷する、赤道南北各二十度の範圍内にし、流域四千五百哩世界最大河流たる、(アマゾン)を中心として、廣漠一帯無盡の寶庫たる、實に四千哩スコヤに發生し、其面積は六共和國に跨がれり即ち「ベネズエラ」「コロンビヤ」「エクワドル」「ポリビヤ」「秘露」「ブラシル」の熱帯諸國である。

天然護謨採取が歐米の會社で出來ざる理由

斯くも廣漠たる富源に向つて、未だ歐米人の會社組織の出來ざる理由は、由來歐米人は世界一流の人類にして、富美の程度に養成されたる人種多き爲めに、熱帯の氣候に戰ふ勇氣と、勞働に對する耐忍力とを缺く爲である。

尤も現代の競争舞臺に於ける歐米人は、世界一流の優等人種として、宇内何れの領土を問はず、農工商礦牧其他幾多の事業に従事し、加ふるに各國政府より相當なる自由と補助を得て、熱帯温帯寒帯に至るまで資本を投じつゝあるので、何等の妨害何等の人種的色別もなく、至る處勝手氣儘になり得るの便宜を有するのである。然るに彼等労働者は勞銀の高度なる場所と總ての滋養飲食物を得易き所と、氣候の温和なる土地を選んで、群集し、然も事實に於ては、彼等の希望する、範圍丈けにも勞力不足を感じつゝあるのである。然れば熱帯地方に於ては、如何に有利なる労働あるも、白人の勞力を多數得んとするは不可能なるは火を見るより明らかである。で、労働者の得られざる地に於ては、如何なる資本家も手を盡すに道なく、空しく有利な

る事業を知りつゝ、傍觀するの外はないのだ。

惟ふに我が大和民族は、勇猛の氣性に富み、鐵の如き忍耐力を以て、南米富源の無盡藏たる寶庫に向ひ、一度經驗を得たる以上は、必ず相當の有利なる成績を擧ぐる時運が來るであらう。而して其時期に達したらんか、我が國移民問題を解決すべき秋に達すると同時に、年々五十萬以上増殖の苦悶も解決すべきを信するのである。

天然護謨採取方法及各國政府の保護法

護謨採取人に對する、南米各國政府の保護法は、護謨採取人として各國領土に、護謨樹探檢を試み、而して護謨樹を發見したる場合は、其の護謨樹は、發見者の所有と認むる規定なれば各國領土内の何れを問はず、突進して護謨樹を探檢するを第一の目的とする、そこで護謨を採取した後、此れを輸送する場合は、必ず國境を経過するので税關は積載し居る護謨の量數を調査し、一パウンドに對し約貳拾五仙の輸出税を課す、其護謨に焼印を押し護謨採取税仕拂の證として通過せしむるを規定として居る、で甲より乙の國境に進入し、其の領土内にて探檢採

取したる護謨は、是れを乙の國境經過の場合、甲の税關と同一なる規定によるもので、甲國の焼印したる荷物を除外し、他の無記名なる荷物は、乙の領土内にて採取したる護謨と認定せるものなれば、乙税關は是れに焼印を押し、同一輸出税を乙の分に仕拂はしめ通過證とみすのである、其他特別法たるは土地所有權の必要なく、又借地權の必要もなく世界無比の勞働保護法にして、實に別天地であると同時に、如何に人力の貴重なる哉を思はしむ。斯くの如き無人界の天産物を、外國人の手に自由なる行動を與へあるは、如何に富源の天地が、特別法に依つて開放主義であるか、了解さるゝのである。

護謨探檢の用意と行動

護謨樹を探檢するには、伯國北部アマゾン河畔に於ける二大集散地たる「アマゾン」州の首府マノアス、又パラ州の首府ベレン市と、其の上流に於ては、祕露の最北に當る「ロレット」州の首府イキトス集散地を以て、探檢者の起點地と定め、而して是れより集散地を出發するや、直に無人界たる富源の寶庫に向つて行動を開始するのである。要するに探檢の用意は、總ての食

料品と露營生活をなすべき、六ヶ月又は八ヶ月の衣食住に差支へなき様注意を怠らざるを必要とする、其の他風土病マラリヤ熱に對し、豫防法及藥種飲料水の吸水器具、或は猛獸虫害に對する豫防の注意を怠らず研究すべきは無論である。

起點地を出發の際には、小蒸汽及ボートに總ての荷物を積載し、アマゾン河の各支流に舟を進め、或は遠く大陸の森林を踏破し、猛獸食人種を友とするのであるが、先づ一時的の小屋を作つて雨露を防ぐの用意をなし、而して其周圍の一哩スコヤー又は二哩スコヤーを採檢し、護謨樹を發見するを初期に於て専務とする、是れを思へば恰も實戰に於ける斥候兵の如くである。

護謨を搾るのは婦人で出来る

護謨を搾るのは極めて容易なるもので、先づ其日搾らんとする樹の幹に、斧を持って横に疵を付け、切口の兩端に鏝を打ち付けて置くのである、鏝に流れ入りたる護謨汁を、更に「バアツケツト」に集めて小屋に運び、鏝は再び切口に打ち付け置く、そして其汁が、有機物となり、そうして其れを煙乾した物が護謨の原料であるのだ、實に容易なる仕事で、婦女子にでも出来る

仕事である。

護謨の種類と繁殖の地方

言ふ迄もなく護謨樹は、熱帶地質の植物にして、炎熱燒くが如き氣候に繁茂し、世界到る處熱帶の天産物なるも、護謨樹には其の種類多く中にも、伯國産としては有名なる二種がある、即ち甲種を「シリंगा」と稱し、乙種を「カウチヨオ」と稱す、其の甲種は今や東印度方面、即ち爪哇スマトラ及ボルネオ馬來半島等に培養護謨として植産しつゝあるも、本家本元たる伯國のシリंगा丈け多く耐久力なく、又乙種は墨西哥地方に於て盛んに培養するも、伯國に於ては甲乙二種共アマゾン州、東西平原の一帶と、大西洋河口迄の廣漠たる大森林に繁茂し、其地勢赤道南北に互り、南は南緯十五度以内の範圍にして、北部は實に北緯二十二度の、中央亞米利加を通じて墨西哥に至る廣大なる面積に繁茂す。是れを東印度に比すれば實に數百倍の面積にして、加ふるに伯國の「シリंगा」なる護謨は白色にして耐久力ある、最も良質なる各國産出の護謨種類中最優等品である。

南米と天然護謨

是れを採取地方にて「へべ」と呼び、亦「バラ」と云ふ、「へべ」とは重き意味にて、「バラ」とは州名を附したるもので、今やバラ護謨の名は世界語と迄に成つた、此の名あるが如く、バラ護謨の良質なるを證するは、歐米の工業界に於て歓迎さるゝを以て見るも、其價値に於て世界市場の最高價額を保ち、護謨王と呼ばれるゝに至つた、故に販路の廣きことと、購買力の多額なるを以て證するに足るのである。

惟ふにバラ護謨の如何に耐久力あるかを知らんとすれば、先づ自動車自轉車の「タイヤ」に製造し、以て試験すれば分るのである、如何となれば、是れ等車輪のタイヤは馬來・ボルネオ方面の培養護謨の堪ゆるものではない。伯國バラ護謨製のタイヤ、三ヶ月を堪へ得るに對し、馬來ボルネオ護謨は一ヶ月にして、破損する割合なれば、如何にバラ護謨の耐久力強きが、信じ得らるゝのである、其他耐久力を要する工業上の原料は年を追うて必要を増加するは無論にして、最近日本へ輸入したる護謨は、一ヶ年四百萬圓である、其價額の三分の二は、バラ護謨であると云へば、如何に伯國産の優等品であるかを知るべきである、歐米人の手を経て迄も

必要なる原料は、既に述べたる如く南米大陸の野にありて、世界の何人を問はず、自由に採取し得る權利を許しあるにも拘はらず、未だ日本人にして此の利益を收めんとするものなく、歐米人の群集するを傍觀し居るのみ、何故に日本人は傍觀すべき哉、今や我國商工業の發展上より見るも、勞力過剩の移殖民問題より見るも、最早研究の餘地なきを知るであらう、而して此の伯國バラ護謨の如何に大なる消費力あるかの一例を擧ぐれば、北米に於ける一部分丈けにて、實に左の通りである。

北米加州の人口貳百四拾萬に對し

- 一 自動車 拾壹萬臺 壹臺のタイヤ(四輪)貳百圓
- 人口約二十二人ニ付キ一臺 其價額合計貳千貳百萬圓
- 一 自轉車 百六拾萬臺 壹臺のタイヤ(ペヤ)拾圓
- 所有者人口ノ三分ノ二トス 其價額合計壹千六百萬圓

自動車一輪のタイヤ(五拾圓)、壹臺の自動車に對する四輪とすれば、貳百圓にして、今是れを我が國の自動車としては數ふるに足らずとするも、自轉車に於ては約五百萬ペヤ(二輪)と

南米と天然護謨



する時は實に五千萬圓である、(一ペヤ十圓とす)、而して是れを全世界に製造する自動車自轉車  
丈としても、如何に伯國巴拉護謨の必要なるかを知り得べきである。

天然護謨林の收得

天然護謨に關する伯國政府の調査に依れば左の如くである。

一 エストラダ

探檢森地區

新開地護謨林

一五、自至二、本

同一地方森林

八、自至七、

一 エストラダに對し、收獲同一ならざるは即ち天然樹なるが故に其地方一帯の收獲平均額とな  
すものであつて、平均産額一エストラダ「四百キロス」とす(ゴム汁)

天然護謨採取と日本人の殖民地

マモレ河沿岸に屬する、マトグロソ州の北端各支流地方にて「シングー」河の上流に次ぎタ  
バジヨ河の一部亦極めて有望である。此の地方は一エストラダに付き、一年間に一千キロスを

收穫する實驗より見れば、第二位地方たる平均年收四百キロスと合算すれば、是れ即ち七百キ  
ロスとなる、是れを栽培護謨九年目の收獲と同一とする時は、初年より平均四百キロスより七百  
キロスを得るものにして、自然護謨に比較上大差あるのみならず、栽培ゴムの五年迄と其他、  
收支償ふまでの固定資本を見る時は、自然ゴムは如何に栽培ゴムより有利なるかは、議論の餘  
地なきものと信ずる、又東印度及墨西哥方面の栽培ゴムも同一にて、資本對利息を見る時は、  
天然ゴム採取の利益確實にして、其他世界何れの栽培ゴムたるを問はず、アマゾン天然ゴム以  
上の有利なる採取業は、他になきこと、信ず。

アマゾン州天然護謨の特長は、前に陳べたる如く、耐久力の強きこと、既に専門家の實驗上  
定評とするのみならず、ドクトル、クーパー氏の栽培と、自然ゴムに就ての説明を見るも明らか  
にして、且つ最近の世界市場に於けるゴム相場より見るも、伯國巴拉護謨以上の價値ある護謨  
はなく、此のゴムあるが故に、アマゾン河三大集散地より、年拾貳億と云ふ多額の輸出を見る  
に至りたる以所である。

而して此の護謨を輸出する船籍は、英國リバプール港に於ける、ブリスコンバニー所有汽船會社にて、其の噸數六千噸より四千噸の汽船、約三十五隻の多數を以て獨占航路とし、北米紐育を起點とする一航路と「リバプール」を起點とする航路に依つて、英米よりは雜貨を輸入し、歸航は全くバラ護謨の輸送を專一とす、是れを以て見れば、驚くべき拾貳億の輸出を證するに足るべきである。

要するに栽培ゴムと、天然ゴムとの純益の差を見んとすべき歸着點は、其の取得する所を前後の二途に分つものにして、即ち栽培護謨は植付後十年を経て收利せんとし、天然護謨は採取初年より十年迄に收利せんとするにあるのである。

故に無盡藏なる、伯國其他の共和國を併せたる、護謨採取範圍(アマゾン河を中心として)を四千哩平方の面積とする程なれば、天然護謨採取は十年毎に新開地に移住するとせば大資本を要する、栽培護謨の經濟上に於て不利なること明白であるが故に、天然ゴム採取は小資本をより以上に迅速に運轉し、採取の附帶事業として栽培なせば、資本の動力は尙栽培を迄なし得る

一舉兩得の事業とす、且進んでは殖民政策の根柢となるべき、最も有望なる事業なれば、今日に於て日本人の手に此の事業の經營をなさざるべからず、惟ふに十年の後には必ず地上權問題となり、延ひては資本の競争舞臺となり、尙進んでは發言權の有無となるであらう。

栽培護謨林の收利

栽培護謨に關する伯國政府の建議書を見るに、アマゾン栽培護謨の收獲統計表は左の如くである。

栽培時期より五年間は採取期に達せず(即ち幼木の爲である)

|     |        |         |
|-----|--------|---------|
| 五年後 | 一エストラダ | 一二五キロス  |
| 六年後 | 同 同    | 二〇八、キロス |
| 七年後 | 同 同    | 三〇八、キロス |
| 八年後 | 同 同    | 五〇一、キロス |

平均産額四年間として「一エストラダ」に對する三百貳拾四キロスとす

是れを豫想して十年目に達し、年エストラダに付き五百キロスとするも、栽培時期より五年

間にプランテーションに費消する耕作費用を計算する時は、栽培護謨の天然護謨より純益少なきは比較上火を見るより明らかである。

殖民地と護謨採取地方

アグレブールマデイラ河沿岸よりバナテツバ地方は、大林森ゴム發生地にして、プランコ河地方は風土病少なき地方なれば、人身に適するのみならず、「マノアス」市より約五日間の小蒸氣船にて達する最近採取地である、此の地方の護謨樹は一日一人の採取高平均約一キロ自至三キロスを收得するのである。

有望なる地方

ジャマリ河地方最も人の注目する地方にて、「ジャカレ」河地方は猛惡なる土人の巢窟として恐れ居る地方なれば、未だ何人も手を付けざる護謨林なるが、若しも此の土人を手に慣れさせるの方法を得ば、實に一獲千金の地方となるであらう。而して下流は「スリモン」に屬し、餘り大ならざる一支流である。

衛生状態良好なる地方

スリモン及アマゾナス沿岸地方亦マデイラ河沿岸地勢よりマモレ鐵道の起點地たるサン、アントニオ迄に當る地方、其他ブール河の一部、或はアグレの一部、サボリ附近の一帶とする其他收入本位の地方を擧ぐれば、アグレの大平原一帯△ジャマリ河地方△シングータバジヨ上流地方△トロンベタ沿岸地方△タゲアル水道に面せる大陸地方を云ふ。

護謨耕地の慣例と發見者所有樹價

護謨耕地の價額は總て一エストラダを以て範圍と定むる慣例として居る。(一エストラダ)は日本の約一町歩であつて、護謨樹百五拾本自至貳百五拾本を有する發生部落の不定にして、(即ち密接なし居る所と飛々に發生なし居る大森林)而して衛生状態良好なる地方は概して高價なるも、スリモン及アマゾナス沿岸地方は一エストラダに對し貳百ミルレースより五百ミルレース乃至參コントの間にあり、甚だしき高價の場所に至つては、五コント程の特別なる例

南米と天然護謨

外相場を呼び聲となす場所があるも、是等は日本の地價も同一にて、持主に依つての勝手相場なれば、一定して居るものではない。

一 エストラダより收獲する護謨汁の多量なる方面は、アグレブル河及マデイラ河の順序にて、其他スリモンに次で、アマゾナ沿岸地方は前地方二流線より稍々少量なりと稱へられて居る。「スリモン」沿岸地方は最も古くより採取人の入りたる爲め、樹幹枯渇して最早多量を得るを望むべからずと雖ども、マデラ河沿岸は未だ新林の發見されつゝある事と、最近に至り交通の便宜完全なるを得たるのみならず、近き將來に於てマデアアアラへ税關を設置する程なれば、護謨輸出に向つても此の地方を便利とし、歐米人は此に目的を付け居る人々多しとの高評ある地方である。

而して衛生上より云ふも、交通上より云ふも、亦將來の開發地より云ふも、此の地方は最も安全なる護謨採取地方なれば、投資家の争ふて足を向くる場所である。

アマゾナ州マノアス市物價表

| 物品     | 量    | 日本價    | 價額      |
|--------|------|--------|---------|
| 一米     | 五斗三升 | 二六、〇〇  | 四〇ミルレイス |
| 一豆     | 百斤   | 七、八〇   | 一二ミルレイス |
| 一砂糖    | 百斤   | 七、八〇   | 一二ミルレイス |
| 一咖啡    | 六十斤  | 四、五、五〇 | 七〇ミルレイス |
| 一燕     | 六十斤  | 一、三〇   | 二ミルレイス  |
| 一人參    | 六十斤  | 一、三〇   | 二ミルレイス  |
| 一キヤベシ  | 六十斤  | 一、三〇   | 二ミルレイス  |
| 一マンザチカ | 六十斤  | 三、九〇   | 六ミルレイス  |

アマゾン州マノアス市肉類價表

| 物品  | 量     | 日本價  | 價額     |
|-----|-------|------|--------|
| 一鶏  | 五〇グラム | 三、五五 | 五ミルレイス |
| 一卵  | 二グラム  | 二、六〇 | 四ミルレイス |
| 一牛乳 | 半リットル | 一、三〇 | 二ミルレイス |
| 一牛乳 | 合七五   | 一、三〇 | 二ミルレイス |
| 一牛乳 | 合二五   | 一、三〇 | 一ミルレイス |

南米と天然護謨

(五五)

十五萬哩

|     |    |      |
|-----|----|------|
| 一豚  | 一頭 | (三一) |
| 一山羊 | 一頭 | (三九) |
| 一牛  | 一頭 | (七二) |

度量

一噸  
一アロバ  
一百キロ  
一キラム  
一アラケン  
一リツトル  
一キロメートル  
一アルケトル  
一エグタレア

里程反歩

一九五〇  
一九五〇  
三九〇〇

數

一、一、キロ  
一五キロ  
二、六六貫目  
二、六六匁  
一升  
五合五夕  
九丁  
二丁五  
一丁

三〇ミルリス  
三〇ミルリス  
六〇ミルリス

(五六)

通貨(ブラシル國)

一百レリス  
一千レリス  
一ミルレリス  
一百ミルレリス  
一千ミルレリス  
一コソント  
一十コソント  
一千コソント

氣船發着地名

橫濱倫敦間  
同 同  
倫敦伯國リヨシヤネル間  
同 同  
リヨ府ヨリマノアス港間  
南米と天然護謨

netasnek

貳等船客  
三等同  
貳等同  
三等同  
貳等同

倫敦  
巴拿馬  
檳榔嶼

六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇  
六五〇〇〇〇〇

再拾錢  
六五

三六〇〇  
一八〇〇  
一六二五  
六五六  
一六二〇

同

三等同

六五〇<sup>円</sup>

上陸税(伯國各開港地)

(但上陸後返金)

〇三〇

倫敦上陸見金(保管金)

三等(但シ日本移民船)

八ポンド

横濱ヨリ伯國リヨ港間

一、八〇〇

### (二四) アルゼンチン共和國

露國人の移住多き殖民地

アルゼンチンのパタゴニヤ殖民地方は、未だ交通機關もなく、それが爲に開拓も容易でない、併し近年は露國人の移住するものが多くなつた。

パタゴニヤに就て面白い逸話がある、西班牙遠征軍が南米探検の途次船を南へ南へと進めて行くと、遠く海岸の空に細く煙を引いて居るのを發見したので、火の無い處に煙は立たぬ、兎に角船を寄せて見ると船長は船首を轉じて一直線に沿岸差して進んだ、愈々接近して船を灣内に入れ錨を投じ、ボートを下して陸戦隊を上陸させて見ると、附近には人陰も見えぬが、濱邊

の砂原に大形の足跡がいくつも付いて居るので、是れは人間の足跡に相違ない、然し如何なる人類であらうか、此足跡より考へて見ると、餘程大きな人間であらう、兎に角進入して見ようと陸戦隊は用意して山林を深く探検して見ると、果せるかな五六の土人を發見したが、豫想の如く見上げる程の土人であつたので。

大足國と命名した

そこで遠征軍隊長は、此の陸地を呼んでパタゴニヤと名稱した(即ち大足國)のである、併して土人の種屬を呼んでパタゴネスタ(即ち大足の人)と名稱したと云ふのだ。

男に髭の生へぬ土人と風俗

パタゴニヤ土人は男女の區別が分らない、それは何故かと云ふに男に髭がないからだ、そうして髪は生れながら櫛一度當てた事がないと云ふ有様で、唯乳の大小で男女の見分けが付くのだ、そうして少し開けた一村落を造つて居る所では、頭髮を網んで後に下げて居るが、其網方は老若とも同一である、衣服は敷物の様な幼稚な毛織物で、形ちは四尺平方位、其真中に穴を

アルゼンチン共和國

明けて其れを頭から冠つて首丈け出して居る、女は幅二尺位の布を腰に巻いて、上着は肩掛の様な長方形の毛織物を巻き付けると云ふオツな風俗である。

土人の職業と食物

土人は畑を耕すことを知つて蜀黍と赤豆を作つて居る。蜀黍は石の平面のを選んで其れに十字形の疵を付けて、其上に實丈け取つて摺り押すので、其摺る棒は石を丸くして両端を細く中央部は斜線を不規則に付けて、そうして両手に力を入れて豆を摺り下すのである、で餅のやうになつた豆を更に薄く延ばし、煎餅の様に圓形に切つて其れを焼くには、石を二個並べて其上に平面の薄い石を蓋のやうに置いて、其の下に火を焚くのだ、そうして煎餅にした豆餅を焼くのであるが、是れは焼立でないとい味が好きないので、必ず焼きながら食うのである。又赤豆の方は唯摺り押して其の中に砂糖の汗を甘蔗より取つて豆の中に入れ、恰も潰し餡の如くして食うて居る。又獸肉は山鹽を取つて鹽肉とし、河に魚を押さへて豆の蔓に通うし、そうして鹽肉は幅一寸程にして真田のやうに細長く切つて乾燥するので、魚も干物とし吊して置くのもある。

獸獵と習慣の奇談

畑の耕作が暇になると、山野の間を飛び廻つて、グワナコ狩りを業として居るが、バタゴニヤの土人は、グワナコ狩りには一種特色の技能を持つて居る、又グアナコも特種の獸類である、此の獸は恰度駱駝の様な體格、其體格は大きな羊程で性質も又羊によく似て居る、そうして此の獸は必ず群をなして絶壁の山間を押し歩いて居るので、土人等はグワナコ狩りに出かける時は尠なくも四人一組となつて行くのだ、其所持品は研ぎ澄したる尺位の刀を腰に下げ、もう一つは毛繩の約二丈位もある狩繩を持つて其先きに適當な重量の小石へ十字形に疵を付け堅く縛り、其れを肩へ袈裟に掛けて革の袋を兩足に通し、そうして紐で腰巻へ吊して居る、用意が出来ると馬を引き出して、飛び乗つたと思ふと、其内の指揮命令を下す熟練した一人が先頭を乗り出す是れに續いた面々は威勢堂々たるものだ。

アルゼンチン共和國

他の三人は飛行機の如く走つて行く／＼肩に掛けたる毛繩を手に取つた、右手で小石を投げたと思ふと彼の二丈もあらうと云ふ繩は、空に飛んで輪を造つてヒュー／＼と音を放つて廻はる、指揮する一人は時機を見て取り、「突貫!!!」と山も崩れんばかりに一聲高く張り上げる、見る間にグワナコの群は雑木の中に逃げ込む、土人は繩を納めて追撃するや、グワナコは突撃の急なるに驚いて方向を過ち遂に平原に現れた、指揮者は電光の如く右翼を突いて、尙一物も無き廣漠たる原野に追ひ廻したので、此に四人は再び繩を振り廻し始めたと思ふや、土人は曲馬師の如く馬脊に直立した、グワナコは懸命轉るがるやうに走る、「打て!!!」と命令下たる、四人は一時に、今や切れんとばかり勢ひの附いた投繩は小石と共に風を切つてグワナコの首に、足に、腹に、所嫌はず巻き付いた、と手筈あるやグーツと引くグワナコは逃んとする力で引縮めると云ふ譯で、捕獲する!!! 馬上から飛び下りる。刀で首の血管を切斷する!!! 倒れる!!!。再び繩を取つて馬上に飛び乗る、狂ひ迷うグワナコを又々追撃!!! 投繩!!! 捕獲!!! 斯くして捕獲せしグワナコを馬脊に積んで住居に歸へり後皮は剥ぎて酒し、其肉は食料とす

るのである、此の皮は綿の如き茶色の柔らかき毛であるから、歐米に輸出して外套の襟や袖に付け又敷物其他の防寒用に歓迎されるのである。

土人の勳章は人間の首

習慣は文明人でも不合理の事が多いが土人にはそれが一層甚だしいので、バタゴニヤの土人等は部落と部落との土人で時々戦争をやるので、其の争點の原因も僅かの事から起るのがある、今其一例を擧ぐれば頭に手の觸れる事を嫌うと云ふのは、髪に手でも觸れたものなら、直に怒氣満々として相手の髪を引つ握む、それから大立廻りになる、彌次馬が飛び出る、そこで種屬が違ふと両方に應援が出て来る、火の手が上つて大事になると戦争的火花を飛ばせる、遂に強者は相手を殺す、其首を切つて凱旋すると云う譯だが、こうした事が度々あるので、部落で豪傑と云はれる男はサア戦争となると、首を四つも五つも脊負ひ込んで、恰も日本の軍人が、金鷄勳章を掛けた如くの氣で出陣するのである、そこで又々連戦連勝で凱旋する時には生々した血染の首を引つ下げて威氣揚々として引き上げるのだ。



そうして此の首を乾燥させる方法が面白い、先づ頭の脳味噌から周囲の肉を總て刀で切り落し、清潔にした上で更に乾燥をするのが珍である、其理由は了解ないが必ず九日間に乾燥しなければならぬと云ふのである、それが爲めに肉汁を全部乾すに丸い小石を火の中で焼いて、その汁を以て中の汁を乾かすのであるが、今乾燥に就て最も技術とも云ふべきは顔の表面を殺した時の其儘の顔にして少しも皺の出ぬやうに生きて居る顔に見へなければならぬと云ふのであるから六ヶ敷、斯うして九日間に乾燥した首を神棚に祭つて清めるのである、而して或時は農作が不作の年には此の首を脊負つて畑に出掛け、どうぞ此の首を差し上げますから、豊作にして願ひますと、神に祈るが、其甲斐もなく不作であると、激怒罵倒し遂に貴重として祭りある勇者の首を、惜気も無く踏み付けて堀の中に投げ込んで返つて来るのだ。土人の迷心も甚だしいこと此に至つて極まれり。

世界最南のマゼラン海峡

西班牙遠征軍は此のマゼラン海峡に達した時、ふと望遠鏡に映じたる雲の如き一點の白標

を見止めた、船長は何物かを得んと氣色顔に現はれて船員を甲板に集め見よ未だ大陸の如何に長さを、既に南緯四十度以上に進む今後幾千里の陸地を發見するものぞと、此時船長は陸地の南極に迄連続し居るかと思ひを起した。時に彼の白煙は消えんとする僅かの運命、航海長は口を切つて曰く、先程より心に疑問としては居つたが、最早人類の發生する範圍とも思はれぬと云つた、船長は船員を督勵して曰く兎に角彼の白雲の消え去りたる方向に進むと決したれば、今夕は其何物かを發見せよと注意した、併し此日も又夜間に到つても何物も見出す事を得なかつたのである、翌朝午前四時、未だ残星の光線を引く頃、大陸を切斷したかと思はれる、奥深き入江を發見したので船長は舵取に命じて此の江内に進めと、直に船首を江内に向けた、接近するに随つて潮流愈々急なるを以て船は容易に進まず、此に到つて船長は大陸の切斷され居るを知ると同時に船長は非常なる趣味を以て此の潮流を研究する事となつた、併し潮流は如何なる海水の流れ來たるものか、如何なる陸地が此の海峡兩岸に接續爲し居るかと多大なる希望を以て、押し流されんとする急激なる潮流の岸に接して進み數時間を費やして漸くに其目的

を達し得た。

テラ、デル、フエーゴ村

「ト」眼前に見ゆるは夕景の光線に反斜して、繁茂したる樹木の間に煙が縫つて、其下に火が燃えてをる、次第に太陽の光線は去つて行くと共に火の色は明らかになつた、すると船長はそう云つた雲と思つた一點の白煙は或は此邊であつたらう、此の海峡に住む人類は何種族なるか一時も早く知り度きものと、船を進めて行く先きは廣く又狭くなつて、或所は僅かに船體を横にした程の幅である、そうして大曲りに不規則に曲折した海峡でかると思ふうち、彼の焚き火の沿岸に達した。甲板から望遠鏡で附近を探見すれば此には遠く蜂の巢の様な小屋を發見した、船長初め船員一同は遠征の探検より得たる最好材料であると大いに嬉んで一行の成功を祝した。船長は陸戦隊に上陸を命じ此に居住する土人を探つて見ると、此の土人はバタゴニヤ土人と其骨格を異にし、男子は髭の中から顔を出して居る様は甚しき毛深い土人であつた、女は髪を網みも結びもせず、生れた儘下げた其上に輪を嵌めて猛鳥の羽根を一本後ろに差して居つた。

船長は此の海峡に命名するに自己の名を呼んでマゼランと名稱し、此の地名をテラ、デル、フエーゴと命名した(即ち陸地の火)との意味而して土人を呼んでフエージャン種屬と定めた(即ち火焚人)と名稱したのである、彼等の風俗は木の葉或は木の皮の纖維を以て網みたる衣を纏ひ、又獸類の皮を衣物として居る。

今や此の海峡は全世界の最南海峡と明白に探検家の保證する所となつたが、其の地理上に於ても當年の名稱を其儘變更もせず、各國地理學者の興味ある地名とし又人類學者の研究材料とすべき價値ある南米大陸各種の土人種屬である。

ブエノス、アイレス府

首府ブエノス、アイレスは南米三大河の一たるラ、プラタの河口に位し、其人口百萬を以て數へらるゝ南米第一の大都會にて、完備せし港灣、市街美麗、文化又た普及して南米の小巴里である、同港には二條の運河水路に由りて出入し、港内は棧橋より直に貨物を鐵道に轉載し得べく、貨物積卸の便最も自在である、又一萬噸大の船舶は棧橋に横付けとなるので、船客の上

アルゼンチン共和國

陸は自在である。

航路は、歐洲北米の間に航海する十有餘の大氣船會社々船は何れも定期航路なれば極めて便利である、又陸には延長一萬一千百六十哩の鐵道があるので、世界の片田舎なぞと思つたと大ひに間違つて居る、人種も西班牙種屬で、殊に氣候が溫和であるから、先づ世界中の美人國と云てもよからう。

書き出せば山の如くで、到底小冊子のよく悉くすべきではないから、此國に移住を望む讀者の爲めに移民規則を書く事にした。

亞爾然丁國の移民規則

亞國の面積は廣大なるにも拘はらず、人口頗る少なく、爲に政府は銳意外國人の移住を獎勵して、内地富源の開發に熱中して居る事は、今此に移民法令を讀んで明らかならん。

「移民検査」此國に到着する二等或は三等船客は移民として上陸の際検査を受ける規定である、検査の委員は移民訪問官、検査官、検査醫、港務局官吏より成立ち、船内の衛生、船内の裝置、

食物、藥品の供給、船醫及藥局の有無、搭載客數過剩か否や、傳染病者の有無、又船客は流行病地より乗船せざるや否や、猶船内の待遇に就て船客の不平有無を糺し、且移民の便利上船長より航海報告を提出せしむると云ふ譯である。

「移民の應答及取扱」移民は勞力に堪へ得るや否や、及其希望に付て詳細質問を受け、合格者は移民寄宿舎に送られ懇切の待遇を受け、五日間は無料にて寄宿舎より上等の宿泊給與を受く、又寄宿舎には附屬の病院ありて、病人は丁寧に收容す、又健康者と雖ども幼者には必ず種痘を行ふ其他藥品の供給、消毒施設等十分に備はつて居る。

ナシヨナル、レーボア、ビユーロー同局は移民の希望に従つて其職業を周施し、又移民が就職の爲に内地に出發する時は官吏出張の上移民が汽車汽船に乗込む迄萬般の周施をなすのである。

「移民規則」同規則中移民の須知すべき條項を摘録すれば左の如くである。

「一」 該法律中勞働に關する諸官署に就ての條項

アルゼンチン共和國

第九條 「アエノス、アイレス」の移民局及各支部の委員は必要の場合に於て労働及職業局に豫算の規定せる員数の書記を備用する事を得

第十條 前條書記の職務は左の如し

- (イ) 教師、技術家、旅人、若しくは職工の提出する各種願書を受理する事
  - (ロ) 移民の爲就業上利益ある約束条件を取極め又雇主の選擇に注意すべき事
  - (ハ) 移民の希望により其就業上の契約に立合ひ且雇主に於て嚴重に之を履行することを監視する事
  - (ニ) 移民就業數、就業時日、労働の種類、契約條件、契約立會人氏名を特別登録簿に記入する事
- 第十一條 職業局の設置なき地方に於ては前條の職務は移民局支部委員に於て執行すべし

### 〔二〕 移民に關する條項

第十二條 此法律の規定に據り六十歳以下の外國人は其旅行者、技術家、労働者、商人、教師たるを問はず、徳性、才藝を備へ汽船若しくは帆船の二等若しくは三等客として當國に來り且其船賃を自身にて若しくは國庫、卅又は移民保護の會社にて支拂はれたる者は當國に上陸すると同時に之を移民と見做すべし

第十三條 前條の規定に合格する者にも移民法規定の利益を享受するを欲せざるときは當初乗船の際之を船長に通知すべし船長は之を船客簿に記し上陸後港務官に通告す此場合は該船客は單に旅行者として取扱はるべし尤も當國內の殖民地地方若しくは他地方へ契約移民として來たるものは此の限りに非らず

第十四條 移民にして品行方正且技術其他必要の商業に従事する技術ある者は左の特權を享有す

(イ) 本法第四十五條、四十六條、四十七條に規定せる期限内、國庫の負擔を以て寢食することを得

(ロ) 移民は同國內各種の職業を選擇し之に従事する事を得

(ハ) 移民は其住居を希望する地方に向け國庫の負擔を以て輸送せらるゝ事を得

(ニ) 私用品、衣服、家具、農工具、厨具、技術又商業上私用品、移民一人に付家畜一頭宛其他此種規定の品物は無税輸入する事を得

第十五條 前條の規定は移民の妻女及子女にまで適用するものにして若し又子女生長して其徳性才藝に就て證明ある場合に於ても之を適用す

第十六條 移民品行、技藝に付ては海外にある當國の領事若しくは移民委員の證明又は當國領事若しくは移民委員の承認したる移民住居地の官吏より證明を要するものとす

### 〔三〕 移民の宿泊及食事に關する條項

第四十二條 「アエノス、アイレス」、「ロサリオ」其他の都市に於ては入國移民の數に應じて移民の寄宿舍を設置すべし

第四十四條 移民寄宿舍の設けなき地方に於ては移民委員は移民を普通旅館其他便宜の場所に送り宿泊且食事をせしむべし

第四十五條 移民の宿泊及食事は上陸後五日間は國庫に於て支辨すべし

第四十六條 移民重病の爲他に移轉し難き場合は前條五日間の期間經過後と雖も病症持續する間は國庫より寢食費用を支辨すべし

第四十七條 本法は政府と契約したる移民には適用せざるも是等契約移民は其就業地に輸送せらるゝ迄は其寢食を給與せらるゝものとす

〔四〕 移民の地方輸送及就業に關する條項

第四十八條 職業局若くは移民委員は移民の選擇する職業を與ふる爲極力周旋の勞を取るものとす

第四十九條 移民上陸後五日間に其希望する職業を可及的好條件にて得せしむるやう盡力すべし

第五十條 職業局若くは移民委員は移民の請求により其勞働契約に立會ひ契約の履行を確むるを目的とすべし

第五十一條 當國の卅内若くは殖民地の何れかに住居を定めんと欲する移民は其家族及手荷物と共に無賃にて希望地に送らるゝ事を得

第五十二條 各卅に赴く移民は到着後十日間移民委員より宿泊及食事を供せらる右期間後は一日付金貨五十仙(亞國金)宛八歳以下は二十五仙宛の宿料を拂ふべし尤も疾病の場合は全快迄國庫の支辨に任ずるものとす

第五十四條 本法規定の特權を享受せし移民にして當國卅縣を経て他國へ赴く場合は其罰金として國庫より支辨したる總ての費用を辨償せしむ可し

斯くして移民契約は成立するものなれば、別に移民會社の手を経る必要も無く實に亞爾然丁移民は單獨でも夫婦でも彼國

に渡航が出来れば其れて亞國の自由國民となるのである。

(二五) 濠洲聯邦

何人も知るシドニー

オーストラリヤは、謂ふ迄もなく世界の一大洲となつて、南洋の天地に廣大なる面積を築いて居る、併し面積計から大でも、小なる日本には遠く及ぶ處でなく、濠洲の開発された人口繁殖の地は、南部沿岸に接して居るビクトリヤ、ニエーサウス、ウエルス、サウス、オーストラリヤ等の諸州であるが、其内最も何人も知る大都會はシドニー、メルボルンの兩港である、殊にシドニーと云へば、世界に比類無き良港灣であるのだ。

何故にシドニー港は世界無比の良港であるかと云へば、海陸の設備連結が完全に其他此港の特種なる處は、港灣の周圍は到る處天然の深水約五十呎に達し、一萬噸以上の船舶も尙自由自在に横付けと爲し得る程である、尤も人工を加へたる事とすれば、其良港も世界到たる處に數

ケ所を數ふる程であるが、シドニーのシドニー港たる以所は人工を加へざる天然地勢を云うものである、此の港は其港灣の範圍は廣からざるも、南太平洋よりの入口は約一哩弱で、恰も一種の蠅取り瓶のやうな形で港口の風景は、畫工の想像畫と違つて昔時南極方面から、襲來したる暴風の爲め激浪沿岸を洗つて此に押し寄せたる形跡は、周圍の岩石を海中に孤立なさしめ、或は絶壁の如く折り重さなり、又は鏡の如く穴を作つて恰も活動寫眞でも見るやうに、其風景が穴から移動されると云ふ様な眺望を添へたる、所謂箱庭式港灣ではあるが、其必要なる場合には五百雙以上の大氣船も周圍に横付けとなると云へば、世界第一位の良港として世人に知られたる以所である。

完全なる海陸の設備

海陸の設備も陸上には鐵道波止場を添うて其間に起重機は電力を應用して、幾ヶ所も見上る高塔のやうだ、縦横に連絡する線路の貨車に、船より吊り上げたる荷物を積み下して居る、又一方には起重機を最延長とすれば、船内より直に倉庫に積込む事が出来る、又倉庫から船まで

木製のエスカレーターを造つて手輕な箱造りの荷物や麥粉のやうな袋は蟻の行列した様に、船から上つて倉庫に送られて行くので、何處までも人力を減じる方法である。

で、シドニーの港には棧橋は無い、と云ふのは人工を加へる必要がないからだ、唯完全なるコンクリートで波止場が何處までも堅固に出來て居るのである、斯くして海陸の便が連絡されて居るのであるから、浮渠船や便船などで荷物を運送する港灣を思へば、實に完備したる良港と云はなければならぬ。

濠州聯邦は各州に相當なる金礦があると云ふは、如何にも不思議ではあるやうだが、タスマニヤの一孤島にもある、そうして其採掘高も大概相同うして居るのが愈々不思議とも云へば云へるのである。

カンガルーで通名となつた濠洲人

オーストラリア人を、一名カンガルーと呼んで居るのが面白い、其れは英國殖民地ではあるが、アイリッシュやスカッチが多いので、イングラント人が殖民地で成功した、成金黨を馬鹿に

した戯言である。と云ふのは濠洲地帯外には住まぬ動物であるから、呼んでカンガルと云へば世界語に通じて居る、恰度北米人を猿と云ふやうなものだ。

濠洲人を評して云へば羊でなければならぬ、なせかと云ふに、濠洲の南方の沿岸沃土三分の一は羊牧で満たして居るからだ、併し羊は世界到たる處に住む動物だから、それで世界無類のガンガルと名稱したのは振つて居る。

オーストラリヤは地圖で見れば廣い面積だが、實に驚くべき程無用な沙漠が廣漠として居る、赤道緯南三十度以北の中央から北部一帯は無入界であつて、全く草木さへ容易に見る事は出来ぬので、云はゞ面積三分の二は沙漠である。

一頭の羊は一エーカーの草で生長する

羊の牧場は充分に草の發達する處と、沙漠に接近した方面は發達せぬ處が多い、それで其の中央部を取つて言つたものであらうが、羊一頭を養うには一エーカーの草を以て養ふとして居る(即ち日本の四反)位だから、成程日本の面積に七千萬の人口とすれば、牧場の餘地は無い筈

である、其れが山河を交へた天然生の草では其割合には生長せぬので一口に牧場と云ふが、日本の種牛を養ふ位の牧場では問題にはならぬ、併し資本から云へば小百姓で出来る事業ではない。

是れを以て見ても如何に濠洲の、羊、馬、牛の牧場が大事業であり、又其牧場たる原野が廣漠であるか、解かるであらう、羊は毛を狩り其の肉を食料として各國に輸出するが、羊を氣車で他所に運送する時は、實に光景を放つて群集するので、宛然露軍がブレズミル(埃國要塞)を包圍した軍隊の如く、足と足を接して押し出されて来る、四つ割板を以て圍みたる幅九呎程の道は停車場内にある、動物收養所まで連結してあるから、此に追ひ込んで来るが、其光景は恰もナイヤガラの瀑布が溪谷に流れ落ちる様な勢ひを以て集合し、更に動物専用貨車に積み込む處は、見る人をして悲想の感を起さしむるのである、牛、馬、羊の尻を追ひ廻して富豪となつた濠洲の殖民をカンガルと呼ぶのも、滿更無意味の名稱でもあるまい。

記すまでもなく、濠洲聯邦の市場は比較的商業發達して繁榮の都會も多いが、殊にシドニー

は一小倫敦の稱ある丈けに、濠洲第一の盛大な都會である、次でメルボルンの盛況は、昔時南洋食人種の一漁村とは夢だにも思はれぬ、人口各六十萬と稱せらる、南洋第一の牛、馬、羊毛輸出港である。

(二六) ニュージーランド

マウレー土人は馬來人である

ニュージーランドの地勢は日本に類似した島國孤立であつて、氣候も四季に變化するので若しも日本人が或時代に移住せんか、呼んでサウス、ジャツパンと改名するであらう、此國の土人をマウレーと稱して居るが、是等種屬を人類學上より研究して見ると、多くの南洋土人とは種々の習慣も相違がある、又骨格、容貌、毛髮、顔色、風俗言語より觀察すると、布哇、サモア、フキージー諸島の土人とも違ひ、又濠洲及ニューギニヤ、ニューカレドニア諸島の立毛黒奴でもなく、其他マーシャル群島ヒリツピン種屬でもない、要するにマウレーなる名稱は馬來よ

り來たるものであらうと思ふのである、而して其後幾年を経て、布哇種屬との血族を結びたる土人であると思はるゝ要點は、其容貌、顔色及骨格は儘に馬來種である、而して體格の肥満したる處は布哇種の婚血したるものであらう、其他風俗は氣候四季の爲め必要に應じて變化したもので、又言語習慣に到つては、馬來及布哇語の變調あるを以て見れば、マウレーなる名稱は馬來人の漂流し來たることを證するに足る。

一雙の小船で遠征の目的を達した土人

彼れ等は如何にしてニュージーランドに來りたるかを歴史より見れば、彼れ等は一雙の前後細き恰も、レース、ボートの如き小船を以て、赤道附近より流れ來たつたもので、其船の構造はと云ふに、長さ五間幅五尺位で、其形はカヌアに非らずして立派なる小舟である、然しながら舟の内部には何等の設備もなく、無論帆を用ひたるものではない、唯細き二寸角程の木を三尺置き位に舟の舷と舷の間を仕切つて、其中に二人り宛乗り込み、尠くも二十人の男女を以て組織したもので、そうして幅一尺位の先の尖がったハート形の楫で握る所は丁字形に

ニュージーランド



なつて居る、其外に船用具として數ふる程のものは無く、簡單なる小舟である。  
 斯して彼れ等は飲料水と食料を滿載し、南洋の潮流を利用し冒險的遠征を試みたのであるが、  
 或島には飲料水も得る事が出来なかつたにも拘はらず、全く食料となるべき天然物も發見し得  
 なかつたのである、而し南洋は幸に幾千の島嶼は十哩二十哩。或は五哩飛んで三十哩と云ふ、  
 宛然蠅の群集したる如く大小島の横はるを目標として、流る、儘に潮流を追うたものであるが  
 或る時には不幸にして一島も發見する事は出来ず、飲料水も食料も盡きて如何ともする事を得  
 なかつた。で遂に弱者は悲嘆の血泣を呑んで倒れ、豪勇猛虎の如き男女は食はず吞まず流れて  
 後、數日を経て一島を發見した。幸に其島嶼は天然物に富み飲料水の十分なる處より、此に大  
 ひに勇氣を回復したので、悲惨の死を解けたる友を葬るが爲め此に居住すること約一年、彼れ  
 等は歲月を期するのではなく、地理を知るにも非らず、利益を得んとする譯でもなく、何の目  
 的もなく南へ南へと進んだ様だが、其後幾年を経て遂に探検の目的をニュージールランドに止め  
 たのであるが、彼れ等は斯くの如き一小舟をして再び歸り來る潮流もなく又勇氣もなくして、

氣候の健康に適するを悟り此に永住の決心を定めた、生残りたる鐵骨の如き男女は月と年を経  
 て漸く發展し、一國を造るべく人口繁殖と共に此に島首となつたのである。

マウレー土人は其の體格頗る強壯で、見上るばかりの男女であるが、悲しい事には文字もな  
 い程であるから、教育の無い爲に、所謂土人式に生活を爲すに過ぎない、併し土人として比較  
 的趣味ある經歷を有して居る、と云ふのは彼等は遠征を此の最南に達し、此に永住と決した當  
 時彼等の住居として建築したる家屋は相應に組織達つたもので、決して無智の土人ではないと  
 思はれるのだ。

家屋の柱は總て記念碑

其の家屋は何處までも熱帶式ではあるが、建築の組織は東洋風を加味した所が多い、其の土  
 臺には石を敷きその上に柱を立て、周圍の壁は土を用ひずして竹かと思ふやうな、細き丸太を  
 而も磨き出したもので、其れを少しの隙もなく、細繩を以て幾通りも網み、そうして外部には  
 板を以て負ひ、屋根も同一の方法で、極めて急流の水走りになつて居る、それで家の正面は幅

尺位の板で鬼瓦の所も人形が付いてある、此板で屋根の間に雨が進入しないやうにしてある所などは、恰度日本式と違ふところがない、それで其板に彫刻してある鳥が紅柄のやうな赤い色で塗つてある、又家屋の兩端は幅八寸程の板で柱隠しの様に包んで是れにも色が施してある、家の中は何物も組織はなく、大廣間で恰も一個の箱のやうだ、所が縁板が張つてあるのでなく、最も綺麗な小石を集めたものだ、宛然基石を敷詰めた如く、其の上に毛布の様な毛織物を敷き、又は獸皮を敷いて住んで居る、此の邊から考へて見ると、熱帯性である事を現はして面白い所があるに拘はらず、尙一步進んで歴史の趣味とも云ふべきは、家屋の内外に現はれて居る柱に皆悉彫刻がしてある、其の彫刻はマウレー人が南洋を流れて、遠く此のニュージールランドまで探検を試み、大膽なる壯圖を貫徹し、極南の樂天地を發見したる豪傑の祖先を忘れぬ爲め、彼等英雄の容貌體格を記念としたもので、各自の家屋に其記念碑を設立したると同一に、其祖先を尊敬するは、恰も日本人が神武天皇の銅像尊建設して、永久に尊敬を拂ふと、何等相違はないので、彼のマウレー土人は此の如く趣味あり徳義ある人類を以て見れば、南洋土族の食人種

とか立毛黒奴とは全く範圍を異にして、遠く馬來方面より漂流したる印度種屬であることを總ての方面より綜合して立證することが出来るのである。

マウレー土人の風俗と裝飾

土人の風俗は夏季は蕉芭の葉を以て作りたる紙の衣服である、紙の衣服と云ふと、鳥渡面白いが南洋の土人は歐米人の渡航せぬ以前は、何れも此紙を五尺四方位に作製し、其れを二つ折にして、左の脇の下から右の肩に前後から負うて肩の所で止めるのである、又冬季となると獸皮を洒して、片面は毛の付いた儘を巻き付けて居る、そうして裝飾としては首飾が最も特別のものである、其れは青寶石に彫刻したもので(青寶石)あるが、此青寶石は恰度水晶の如く容易に刀物を寄せぬ實に堅き事鐵のやうな質で、其の彫刻に苦心したものだ、其の石は二寸程の長さと同幅も同一位で厚さは二寸ばかり、それで彫刻は人の顔又猛獸の顔などを刻つて居るが、其一個を彫刻するに一年も費したのもあると云ふのを以て見ても如何に石質の堅きか解かる、是れ等の裝飾を首に紐で吊して居るが、一般土人の首ではなく酋長の家族位のものだ、それも

其筈で若しも賣價とするなれば、その一個は千弗の價值があると云つて居る。

世界最南の瓦斯點火

首府ウエリントンに人口三十五萬の大都會で、其港灣は廣い方ではないが、深水五十呎も沿岸から港内を満たして居るので、一萬噸以上の船舶は横付けとなる良港である、北部にオークランド港の繁榮は北米定期航路の出入する爲めと、其他濠洲聯邦より或は南米よりの航路船舶が出入するので、世界の片田舎ではあるが實に盛んなものだ、又南ニュージールランドは中央南部沿岸にクライスチヨルチの都會があり、更に最南にインピカーゴ港がある、此の港に最も趣味ある逸話があつた、それは世界の最南で瓦斯を點火したのは、インピカーゴが最初であると自慢して居ること、もう一つは世界最南に蠟の取れる港は此のインピカーゴの外にあるまいと嬉しがつて居るが、成程其事柄はそれ丈けの話だが、好く考へて見ると最も趣味のある一口話である。

(二七) 南洋諸島

ニューギニアの立毛種族

南洋の土人は未だ石器時代其儘である、と云ふのは夕顔の大形なのは種を出して中を奇麗にし、手桶用にしたり穀類などを入れて居る又椰子の中皮を茶碗の代用とし或は水呑みとして居る、又穀物を摺り下ろすには平らな石に十字形の筋を付けて、石棒とで粉にするとか、金槌の代用は石を木で挟んで物を打つと云ふ様な譯だ、尤も彼等は屋外生活が平氣であるから、別に道具などの必要もないのである。

立毛種屬はアフリカの黒奴とは違つて、頭髮は四寸位は生長するので、其髪が人間の髪としては最も太く發達するのだ其れに毎日のやうに海水に潜るのが仕事であるから、頭髮は上に突き上つて居る、で、成程立毛種屬とは面白く呼んだものだ、此土人は黒奴に屬するので、容貌は鍋炭の様に眞黒で、其れを椰子の油で塗ると光を放つて、恰度靴を研ぎ揚げたやうだ、そう

かと思ふと必要からでもあるが、黒奴としては考へが好い、彼等の住びは海岸から水面に小屋を突き出して造る、成程炎熱焼くが如き赤道附近であるから、水上に住めば涼しくつて清潔である、彼れ等を一見すれば何人も驚く程恐ろしく是れでも人間かと思ふ様な、不動尊の御使にでもありそふな顔をして居る。

歐羅巴人の壓迫を受けたる今日は、猫のやうにして居るが、其實彼等の性質は殺人は名譽として居り、又人肉を食ふ所謂食人種であるのだ。

木曜島の眞珠採り

サウスデー、アイルランドの眞珠は、周圍僅かに二十五哩の一孤島附近一帶に發生するのであるが、此の邊の海水は牛乳でも調合したやうに青白い海水で如何にも眞珠の住みさうな色をして居る、此の島は英領であるが、日本人島と云つて好い、なせかと云へば英國官憲の下に土人等が支配されて居るが、其他の移民は皆日本人である、此れ等邦人は眞珠取を専業として、朝から潜水器を冠むつて、地獄の底を仕事場として居る、彼等の多くは紀州人で、其數約二百

人もあろふ、一攫千金の日もあるが其の利益は英人の懷中に飛び込むのだ、併し當り年には月百圓位は配當があると云つて居る、尤もかう云ふ孤立した島では物價も高いので、萬金を握つて足を洗つたと云ふ話もなかつた。

眞珠具は大きなのは一尺程の珍しいのがある、而し懸命に採取しても、必ず眞珠が具毎に這入つて居る譯でなく、無いのが多くてそれで澤山あつても粟坪のやうなのは餘り金にならず、容易の業ではない、尤も是れが具毎に梅干の様なのがあれば、世界第一の富豪となる事が出来るであらう。

マーシャル群島

マーシャル群島に日本船の漂流する事が多いので、醬油樽とか衣類などが時々砂中から發見されるやうだ、「ラエ」「ラダック」島の土人は頗る悍惡の食人種である、彼れ等は裸體種屬で風俗が面白い角力の取廻しの如き木の皮で造つた、絹のやうな光のある腰巻をして居る、女は乳房を現はして居るので、女と云ふ事が解かる、髪は洗髪のやうに下げて居るが、生れて以來

一度も櫛を通したことはない、尤も女の髪も長くは延びぬ大概七八寸位までいある。

ウージャエ島は大別三十二島であるが、其無人島を合すれば約二百もある、それで各島に酋長一人を置き其上に全島を支配して居る、島王と云ふやうな總主權を握つて居る猛勇が居るのだ、彼れ等は難破船が漂着すると酋長に報告するので、酋長は直に其得物を陸上に運ばして、若しも船員でも居れば片端しから殺害して砂を冠むして塚を造る所は、瘴惡の割合には人間並のことをするのである。

ヤツプ島の土人

ヤツプ島の土人等は物質を以て、通貨として居る、が其の通貨には二種あつて、一つは石貨幣と稱へ、他は具貨幣と云つて居る、石貨幣と稱へるのは水晶の結晶したるやうな石質で其高さ一丈二尺幅が六尺厚さ一尺六寸程の大なる石貨幣もあるが又小形なものも澤山ある、それで大形は四百弗位の價で小形には一二弗位もあるのだ、又具貨幣と云ふのは濃紺色を帯び又は紅梅色を帯びたる珍らしき具で、三角形とか菱形とかの極めて稀に見る具で、其幅は六寸より七

寸位で長さ一尺内外の最も光澤の美麗なる種類であれば、十弗より五弗で最小形の具でも十仙より五十仙位のものだが、物質交換と石器時代とは離る可からざるものである。

ヒリツピン島

云ふまでもなく會府はマニラ府である、西班牙領として人の記憶に存する丈け、米領となりたる今日も尚西班牙語の行はれ居るのを以て見れば、如何に言語の勢力なるものが、國家の根柢となるべきものかを知るに足るのである。

ヒリツピン人種は日本人に類似した國民であつて、其體格も大ならず、而して家屋の建築及建具等も極めて接近する處多きが、唯建具の點に於てヒリツピン獨特のものがある、それは何かと云へば珍妙なる建具で、比較的骨が太くて最も間取細かく造り、(三寸角位)其れに眞珠貝のやうな大きな貝を薄くして張つたものだが、恰も一種の硝子障子である、併し一見する處は日本風の障子と見えるが是れも南洋文明の一端である。

(二八) 全世界五大洲探検を完結す

經過す六十ヶ國行程十五萬哩

明治四十年六月日本郵船會社濠洲航路、八幡丸にて南洋ヒリツピン會府マニラ港に着す、此に於て全世界五大洲の探検を完結し、而して再び香港を経て臺灣に寄港し無事其の目的を達し得て、日本に歸朝したるは同年六月十五日である。

顧みれば約七ヶ年の星霜夢の如く、山に海に風雨と戦ひ又野獸の如き土人を友とし、又ある時は文明の空氣に目を醒ました、而して熱帯の光線に頭を炎かんとし、或は、マラリヤ熱に苦しめられて倒れんとした事もある、又恐るべき猛虎に會ふて退却したり、蚊軍に包圍されて眠られなかつた、更に寒帯の氣候に足を氷結し又雪中を跋涉して凝らんとした、けれ共時として温帯の氣候に添ふては英氣も養ひ愉快もあつた。斯くして經過したるは亞細亞大陸に次で、印度大陸而してアフリカ、歐羅巴、南北亞米利加

濠洲及南洋諸島であるが、更に是れを國別して記さんか其獨立國丈けでも其數實に六十ヶ國である。

(亞細亞)朝鮮、支那、暹羅、馬來、緬甸、印度、ベルチスタン、波斯、高加索、各都市。

(歐羅巴)英、佛、露、獨、埃、匈、伊、西、葡、土、希、白、和、丁、ブルゲリヤ、セルビヤ、ルーメニヤ、那威、瑞典、各都市。

(アフリカ)埃及、アルゼリヤ、ケープコロニー、オーレンジリバーフリーステート、トランスバル、ナタル、デラゴベト、バイラー、モサンビグ、タンガー、ザンジバル、各都市。

(オセアニア)加奈陀(東、西、各都市)。

(北米合衆國)東、西、南、北、各都市。

(墨西哥)南、北、西、各都市。

(中央亞米利加)グワテマラ、サンサルバドル、フンデユラス、ニカラガ、コスタリカ、巴奈馬、各都市。

全世界五大洲探検を完結す

(南亞米利加) コロンビヤ、エクワドル、ペルー、ボリビヤ、チリ、アルゼンチン、ウルグワイ、パラグワイ、ブラジル、ウルグワイ、パラグワイ、ヴェネズエラ、各都市。

(濠洲聯邦) ビクトリア、サウスオースタラリヤ、ニューサウスウエルズ、クイーンズランド、タスマニヤ、各都市。

(ニュージールランド) 南、北、各都市。

(南洋) 爪哇、スマトラ、ボルネオ、ニューギネヤ、サウスデー、アイルランド、ヤップ、ヒリツピン等の諸國で其行程約十五萬哩、而して是れに費したる歲月は七ヶ年である、予は此の歲月と此の廣大なる面積に向つての、旅行記を一小冊に陳べんとするも爲し能はず、故に予は他日満服せるあらゆる材料を讀者諸君に開放するの好機を希望して止まぬ、唯此の數十頁に述べたるは、其のノート、ブックの一部を記さんとして爲し得たのみ。

世界十五萬哩終

大正四年十一月二十日印刷  
大正四年十一月廿三日發行

[卷下]

定價拾錢

著者 中村直吉

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

發行者 株式會社 成社

代表者

小宮山好夫



發行所

東京市日本橋區  
本銀町三丁目二番地

株式會社 啓

成社

電話本局二二〇五〇番  
振替口座一五〇五番

339-613

總理大臣伯爵 大隈重信閣下題辭  
法學博士 新渡戸稻造先生序文  
農學博士 谷 洗馬氏畫

世界探檢家 中村直吉先生著

# アマゾン探檢記

全一册  
四六判上製美本、函入三百三十頁、口繪三色版一葉、挿畫凸版十數葉入  
定價壹圓  
郵稅八錢

南米アマゾンは世界第一の大河にして流域實に四千餘哩河幅數哩に及ぶ此間千里涯際なき處女林あり絶壁深溪畫猶ほ暗きあり無盡の富を藏する護謨樹の深林あり而も無數の奇禽猛獸怪蟲珍魚は太古のまゝに群生し人をして戰慄措く能はざらしむ中村君五大洲探檢の途次彼國大統領の委囑を受け特に此の蠻境を流下し萬死に一生を得たり本書は即ち其實見録也

福本日南先生著

# 天覽元祿快舉錄

菊判全一册

五號總振假名付舶來上等紙八百五十頁  
コロタイプ寫眞版十葉入石版刷大版地  
圖二葉添付上製頗美本函入

定價貳圓貳拾錢  
郵稅拾貳錢

袖珍全一册

總六號振假名付舶來上等紙千一百餘頁  
寫眞數十面入上製頗美本函入

定價壹圓貳拾錢  
郵稅八錢

千古の美談たる赤穂義士復讐の快舉は時の古今を問はず國の内外を論せず人の齊しく仰ぎ見て生ける龜鑑となすものなり本書は文壇日南氏の刻苦多年天下を周遊して諸種の材料を蒐集し萬卷を讀破して一氣に之を叙述せるもの其文字の雄渾なる其史眼の透徹せる蓋し近著稀に見るの快著なり發行以來好評噴々版を重ねること數十に及ぶ袖珍は携帶の便を圖り價格亦甚だ廉たり青年諸君の必讀書と謂ふべし



前南極探險隊書記長多田惠一先生著

△南極探檢私錄 全一冊

郵定價八十五錢

樋渡海門先生著

△武士道物語 全一冊

郵定價七十六錢

故子爵海江田信義閣下述 西河稱先生編

△維新實歷史傳 全一冊

郵定價十二錢

則本富三郎先生著

△官場回顧 全一冊

郵定價一圓三十錢

酒卷貞一郎先生著

△支那分割論附袁世凱 全一冊

郵定價二圓貳拾錢

文學士堀田相爾先生著

△頭腦明晰法百話 全一冊

郵定價四十四錢

高橋龍雄先生編

△健全なる詩歌 全一冊

郵定價五十四錢

小林晋吉先生著

△化學實驗詳解 全一冊

郵定價壹圓五十錢

倉林源四郎先生補訂  
若月秀吉先生合著  
關根丑之助先生著

△尋常兒童理化實驗の指導 全一冊

郵定價五十五錢

美島近一郎先生著

△精力經濟主義を衛生的勉學法 全一冊

郵定價五十五錢

大藏省次官 菅原通敬先生序  
大藏省主稅局員 島延由先生著

△增訂地租、所得稅、營業稅、附加稅稅法便覽 全一冊

郵定價五十四錢

甫守謹吾先生著

△家庭少年少女の行儀作法 全一冊

郵定價八錢

與謝野晶子女史著  
△うねり川 全一冊

三宅雪嶺先生序 三田村玄龍先生著  
福本日南先生校閱評序  
△元祿快舉別錄 全一冊

海軍少佐 石原忠俊先生 共著  
陸軍大尉 本間徳次郎先生  
△ネルソンとナポレオン 全一冊

海軍少尉 市川禪海先生著  
△殘花 一輪 全一冊

露國海軍少尉 レンガード氏原著  
高須梅溪先生 加島汀月先生 共著  
△旅順籠城劔 戀 全一冊

海軍少尉 市川禪海先生著  
△袖珍殘花 一輪 全一冊

△増訂殘花 一輪 全一冊

定價 六十五錢  
稅 六錢

定價 八錢  
稅 一圓

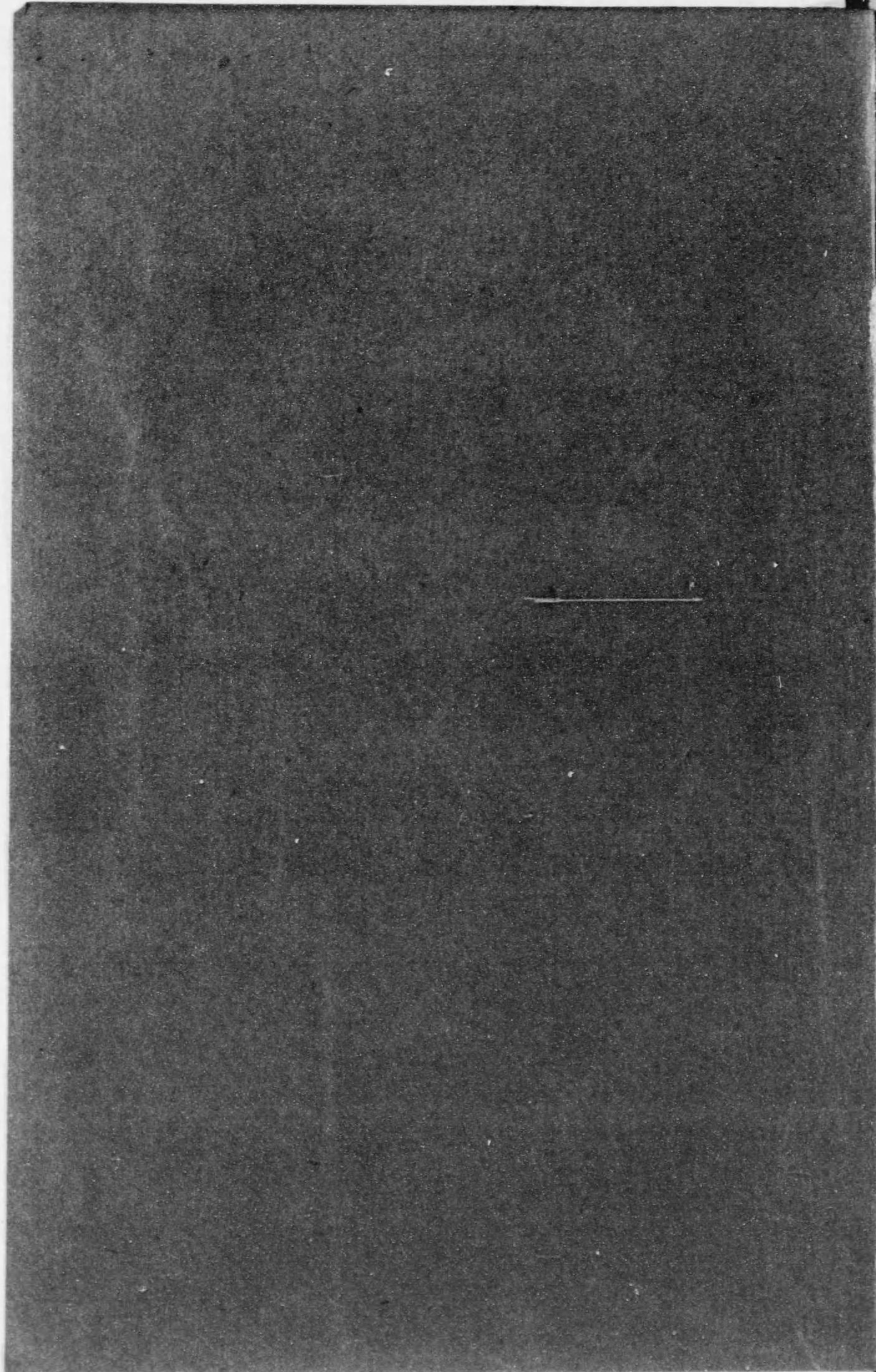
定價 二十錢  
稅 一圓

定價 二十錢  
稅 一圓

定價 三十錢  
稅 一圓

定價 六十錢  
稅 八錢

定價 六十錢  
稅 八錢



739  
613

終

